心連心
Heart to Heart

第14期

川崎大師にて

心連心：中国高校生長期招へい事業

報告書

令和元(2019)年9月ー令和2(2020)年4月

目次

はじめに…… 3

事業紹介…… 4

生徒名簿…… 5

思い出のアルバム…… 6

14期生に聞きました …… 14

心連心留学日記…… 18

留学生活を振り返って －作文集－ … 19

第14期生を受け入れて …… 46

あとがき…… 52

心連心：中国高校生長期招へい事業

第14期 報告書

はじめに

2006年から始まった「心連心：中国高校生長期招へい事業」ですが、第14期生を迎えた2019年－2020年は前代未聞の波乱の年となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第14期生は当初の予定を短縮し、2020年4月に全員帰国いたしました。14日間の隔離を経て全員が無事自宅に戻ったと聞き、関係者一同心から安堵したことは記憶に新しいです。このような大変な時期にも関わらず、第14期生が安全に、そして健康に、日本で有意義な生活を送ることができましたのも、受入校、ホストファミリー、そして地域の皆様のご協力があったからこそと、ここに心よりお礼申し上げます。

第14期生にとっても早期帰国は大変残念であったことと思いますが、それでも彼ら一人一人が綴った文章から窺うことができるのは、彼らがそれぞれの滞在先でいかに濃密な7か月間を過ごしたかということです。滞在期間は予定より短くなってしまいましたが、それでも日本での生活、そして人々との触れ合いの中で、いかに多くのことを体験し、感じ取ったか、ぜひこの報告書をご一読いただければ幸いです。

「心連心：中国高校生長期招へい事業」の卒業生は第13期生までで416名にのぼります。令和2年5月までに、全体の半分を超える221名が、日本の大学・大学院へ進学したり、日本で就職するなどの形で日本に戻ってきています。今住んでいる場所が日本であれ中国であれ、様々な形で日本と中国を繋ぐ役割を果たしてくれている卒業生の頼もしい姿を見ることは、我々にとって大きな喜びとなっています。

人と人との密な交流に課題のあるこのような時だからこそ、人と人とが直接交流することの大切さや意義がより深く感じられるのではないでしょうか。日中交流センターでは今後も日中の青少年の実感のこもった交流を途絶えさせることなく進めていく所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人国際交流基金　日中交流センター
所長　堀 俊雄

「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業としては初めての中国人高校生の長期招へい事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の選考を経て、本事業の第14期生として2019年9月3日より来日した中国人高校生26名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生たちとの絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直に交流し、＜心連心＞心と心を結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

実施概要

期間	2019年9月～2020年4月　※新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け例年より早期終了
実施体制	中国国内での招へい生選考……国際交流基金と中国教育部が共同で実施 日本国内における受入れ……受入校と国際交流基金が共同で実施
招へい生徒	全26名（女子20名、男子6名） 第14期は、北京市、天津市、山西省、山東省、陝西省、河南省、江蘇省、上海市、湖北省、四川省、湖南省、福建省、貴州省、広東省より選抜
国内受入地	北海道、岩手県、秋田県、東京都、埼玉県、長野県、愛知県、三重県、大阪府、和歌山県、愛媛県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
経費負担	学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁
協賛	カシオ計算機株式会社、株式会社資生堂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第14期生名簿

2019年9月-2020年4月

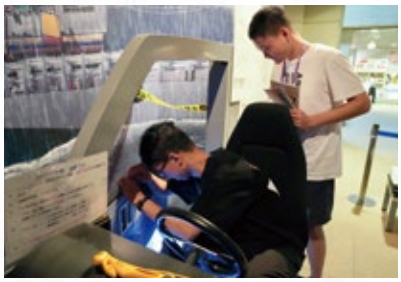
No.	氏名	性別	出身校	受入校	都道府県
1	田 多多	女	上海市甘泉外国語中学	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	北海道
2	史 錦超	男	太原市外国語学校	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	北海道
3	王 籽陸	男	済南外国語学校	立命館慶祥中学校・高等学校	北海道
4	谷 子毅	男	中山市小欖中学	盛岡中央高等学校	岩手県
5	肖 筠	女	広州外国語学校	明桜高等学校	秋田県
6	陳 儀	女	済南外国語学校	埼玉県立蕨高等学校	埼玉県
7	東 亦菲	女	天津外国語大学附属外国語学校	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都
8	付 佳凝	女	蘇州外国語学校	明治学院東村山高等学校	東京都
9	孟 沁培	女	西安外国語大学附属西安外国語学校	長野県長野西高等学校	長野県
10	越 菲颺	女	北京市月壇中学	桜丘高等学校	愛知県
11	王 怡安	女	北京外国語大学附属外国語学校	光ヶ丘女子高等学校	愛知県
12	胡 軼睿	男	成都外国語学校	三重高等学校	三重県
13	高 夢月	女	洛陽外国語学校	大阪府立桜塚高等学校	大阪府
14	彭 子航	男	福州外国語学校	大阪府立三島高等学校	大阪府
15	徐 欣然	女	済南外国語学校	清風南海中学校・高等学校	大阪府
16	王 子旎	女	河南省実験中学	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪府
17	張 卓寧	女	洛陽外国語学校	和歌山県立橋本高等学校	和歌山県
18	唐 錦麗	女	岑鞏県第一中学	愛媛県立南宇和高等学校	愛媛県
19	彭 錦	女	黄岡市外国語学校	活水高等学校	長崎県
20	何 心鈺	女	深圳外国語学校	岩田中学校・高等学校	大分県
21	竜 楚騫	女	長沙外国語学校	熊本県立宇土高等学校	熊本県
22	兪 騫澍	女	上海市甘泉外国語中学	熊本県立第一高等学校	熊本県
23	韓 晗	男	黄岡市外国語学校	日章学園高等学校	宮崎県
24	唐 詩雲	女	南京外国語学校	鹿児島県立武岡台高等学校	鹿児島県
25	楊 思露	女	西安外国語大学附属西安外国語学校	神村学園高等部	鹿児島県
26	王 小禾	女	蘇州市第三中学	沖縄県立向陽高等学校	沖縄県

来日研修 2019年9月3日~9月7日

来日研修の様子を取材した
動画も是非ご覧ください

2019年9月3日、第14期生26名が羽田空港に到着しました。これから始まる日本各地での留学生活に先立ち、東京・千葉で4泊5日の来日研修を実施し、日本特有のルールや習慣、食事マナーなどに関する生活指導や、地震等の自然災害に備えた防災訓練、外務省や中国大使館への表敬訪問を行いました。来日歓迎レセプションでは全員が日本語で自己紹介と留学生活への抱負を発表し、9月7日に受入校の先生方と共に各地へ出発していきました。さぁ、26名それぞれの留学生活の始まりです!

日本に到着!!



防災館で水害や地震
について学びました

外務省表敬訪問

日本での生活に備え 、
研修で 色々なことを学びました

中国大使館表敬訪問

来日歓迎レセプションで
受入関係者の 皆さまと初対面！
これからよろしくお願いします

12月研修 2019年12月3日~12月7日

12月研修の様子を取材した動画も是非ご覧ください

来日から3ヵ月経った12月、埼玉県の国際交流基金日本語センターにて「12月研修」を行いました。来日後2~3ヵ月目は、異国の新しい環境で過ごす留学生にとって、悩みや問題にぶつかり、スランプに陥りやすい時期です。研修ではそれぞれが持つ課題や問題を発表・共有し、お互いに意見を出し合い、問題の原因や解決方法、対策案について話し合ったり、公認心理士を招いて講義を受けるなど、様々なワークショップを行いました。フィールドワークでは神奈川県の川崎大師や東芝科学未来館、横浜の中華街を見学し、現地の文化を学びました。日本各地でそれぞれの留学生活を送る仲間たちと久々に再会し、親交を深めるとともに、日本語の上達に加え、新しい生活で様々なことを吸収して成長している姿に、お互いに大きな刺激をうけたようでした。

14期生の仲間たちと久々の再会

各自の生活地・学校を紹介したり、悩みや課題を共有したりしました

心理学の専門家による講義・ワークは大盛り上がり

日本の伝統文化 和太鼓初体験!!

神奈川県でフィールドワーク

大吉でた？
おみくじの言葉って 難しい…

留学生活

14期生たちの日常をつづった
留学日記もどうぞご覧ください

日本各地でそれぞれの留学生活をおくった26名の14期生たち。アニメや映画で見ていた日本の高校生活は、想像とは違い楽しいことばかりではなく、思い通りにいかない悔しさや悲しさ、異国の土地で家族と離れて暮らす寂しさに人知れず涙を流したこともありました。けれど、それでも諦めずに頑張れたのは、ホストファミリーや友達、先生など周りの人たちの温かい励ましや支えがあったから。新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定よりも早い帰国になってしまったけれど、一生大切にしたいかけがえのない思い出ができました。

大切な仲間ができました

あこがれの部活動にも挑戦！

茶道部で唯一の男子部員

手作りケーキで女子力アップ♪

「食」は国境を越える…！

色々な行事・イベント を 満喫 ♪

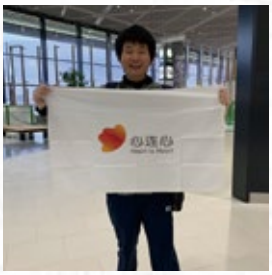
留学生活

ホストファミリーとの数々の思い出

日本の伝統文化も
たくさん体験しました

日本各地の美しい風景を
思い出とともに心に焼き付けました

お別れは寂しいけど、いつかきっと また会えるよね



空港で最後の集合写真

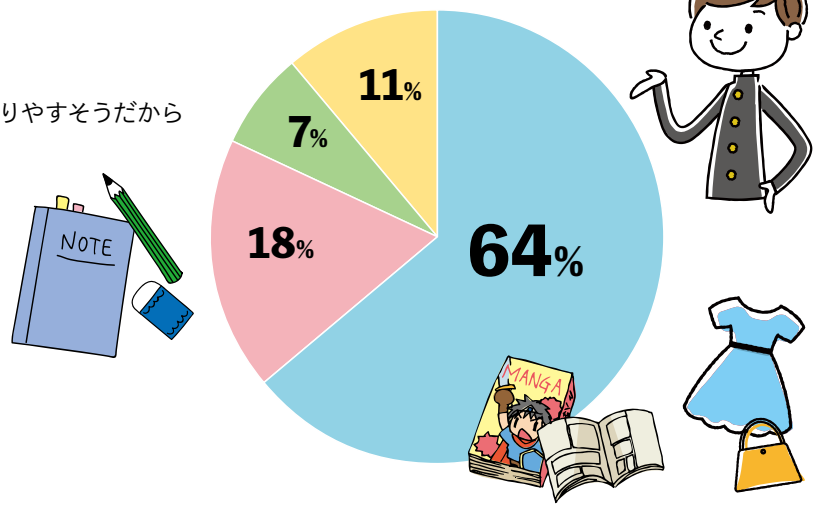
第14期生に聞きました！

日本で約7か月間を過ごした14期生たちに色々なことを聞いてみました。
日本人の私たちが当たり前に過ごしている日常は、
外国人留学生である彼・彼女たちの目にはどのように映っていたのでしょう？
興味深い回答もたくさんありました。是非ご覧ください！

QUESTION

日本語を勉強し始めたきっかけは何ですか。（複数回答）

- アニメ・漫画
- 親戚・家族の影響
- 英語よりも試験でいい成績がとりやすそうだから
- その他



COMMENT

7期生以降ずっと不動の1位を守り続けている「アニメ・漫画」はやはり14期生でも1位でした。好きな作品として挙がったのは『名探偵コナン』『NARUTO』『東京喰種トーキョーグール』『ドラえもん』『宮崎駿監督の作品』『ウルトラマン』など。海外での日本のポップカルチャー人気は影響力絶大ですね。
国際交流基金が行った2018年度海外日本語教育機関調査によると、中国の日本語学習者数及び日本語教師数は世界第1位で、いずれも前回の2015年度調査よりも増加しています。やはりアニメやマンガ、ファッション等のポップカルチャー、観光等への興味・関心をきっかけに日本語を学び始める人たちが多いようです。
”その他”の回答としては、「日本語を勉強することは、自分の将来をきっと変えてくれると思ったから」「日本の大学の自由で開放的な雰囲気が好きで、日本の大学に行きたいと思ったから」「日本の歌が好きで、日本語で歌ってみたいと思ったから」という回答がありました。

QUESTION

来日後に発見したこと・カルチャーショックなど、記憶に残った出来事はなんですか？（※来日後1か月目頃に回答）

食事

・たこ焼きがおいしい。（大阪に留学した生徒の回答）
・最初の頃、冷たい飲み物に慣れなかった。
（※中国では「体を冷やすのは健康によくない」と考えられているため、冷たく冷えた飲み物を避ける傾向がある）
・日本のお箸が短すぎて使いづらい。
・日本の「辛口」は辛くない。
・食べ物の値段が高い。

日常生活

・布団が小さい。
・敬語が難しい。
・ホームシックで寂しい気持ちをコントロールするのが大変。そんな時はベランダに出て月を見る。
・通学路がとってもきれい。空も雲も木も花も美しいです。

学校生活

・クラスメイトの話す速度が速くて聞きとれない。
・友達ができたがまだすごく仲が良いわけではない。みんなの話している話題が全然わからない。
・外国語で勉強したことのない科目と内容を勉強するのは想像以上に難しい。
・数学や科学は簡単。国語や世界史が難しい。現代社会や地理もわからない単語が多くて大変。
・最初、寮内で挨拶するのを忘れてしまったが、先輩が教えてくれた。

QUESTION

日常生活や学校生活で困ったことや、相談したいことはありますか？（※来日後2か月目頃に回答）

・札幌の寒さはすごい。（北海道に留学した生徒の回答）
・日本語に大きな進歩が感じられない。
・ときどき友達がわたしの日本語の口調を笑います。
やはり皆は関西弁の方が好きだと思うので、わたしも「わからへん」「あかん」などと言ったらみんなに「すげー」と褒められて嬉しかった。「入郷随俗（郷に入れば郷に従え）」ですかね（笑）。
・日本の体操着は短くてちょっと困っている。（※中国の体育の授業は大体男女とも長い丈のジャージを着て行われる。）
・冬でも制服はスカートだから寒い。
・日本の部活動は時間が長く、勉強との両立が大変。
・友達をどうやって遊びに誘っていいかわからない。
・つい無意識に失礼なことをしてしまったり、ついだめなことを言ってしまったりしている。みんなは優しいのであまり気にしてなさそうに見えるけど、自分は申し訳ない気持ちになるから、空気を読めるようになりたい。
・中間テストの成績がすごくひどかった。クラスメイトやホストマザーは「初めての日本でのテストなんだからそんなに心配しないで」といってくれたが、やはりとても落ち込んだ。でも落ち込んでもなにもかわらないから、前よりもっと頑張って力を出す！

COMMENT

来日したばかりの時は、全てが新鮮に感じられ、初めての体験や楽しいことの連続で興奮・緊張した状態が続きますが、2ヶ月目以降、徐々に慣れていくに従い、身体的にも精神的にも疲れがでてきて、悩みや問題に直面したり、スランプに陥ったりすることがよくあります。そんな時、周りの友達や先生、ホストファミリーの励ましが生徒たちの大きな心の支えとなり、挫けずに停滞期を乗り越えることができたのでしょう。

QUESTION

「日本の生活に適応してるな」と感じたことはなんですか？

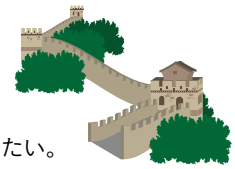
（※来日後３か月目頃に回答）

・婉曲的な表現をつかえるようになった。
・「そうなん？」「やばっ！」「まじ？」など話し言葉が話せるようになった。
・「うんうん」「そうなんだ」など相槌をちゃんと使えるようになった。
・大阪弁が好きになった。方言が話せるようになった。
・「それな」「あざす」みたいな若者言葉を使えるようになった。
・コンビニで売っているパンが、どれが美味しいか、わかるようになった（笑）。
・中国にいたときより声が小さくなった。
・うまく「ごめん」「ありがとう」を言えるようになった。
・日本人らしい反応が少しずつ身についてきた。例えば、考えるときは「えーと…」、他人とぶつかったときは「大丈夫」とか（中国人はしない）。
・何か言われたときや、聞き取れなかったとき「啊（あ）？」といわずに「すみません、何？」というようになった。

QUESTION

中国に帰国したらやりたいことは何ですか？

（※来日後半年頃に回答）



・日本の友達やホストファミリーとの連絡を取り続ける。
・中国の景色を写真に撮って日本の友達に送る。
・本物の中華料理が食べたい。火鍋食べたい。辛い料理を食べたい。
・日本に来る前より成長した自分を両親や友達に見せたい。
・学校の日本語学科のクラスメイトの口語レベルを高める手伝いをする。
・日本の大学に進学するための受験勉強をする。
・今までお母さん一人にまかせてきた家事を毎日手伝いたい。
・家族に日本料理を作ってあげたい。両親に毎日「お弁当」を作ってあげたい。
・中国の学校のクラスに戻っても、向陽高校のみんなみたいに朗らかに優しく人に接したい。
・タピオカミルクティを飲みたい。（日本のは中国と味が違うと思う！）
・メロン（哈密瓜）をたくさん食べる。（※一般的に、日本は中国よりも果物の値段が高い）
・中国のみんなに日本のいいところを紹介したい。（良い考え方や勉強に対する態度など）
・僕が住んでいた宮崎を紹介する。

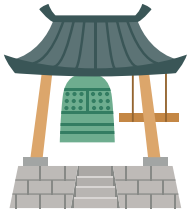
COMMENT

親元から遠く離れて生活することで、改めて家族の愛情の温かさやありがたみを感じた生徒も多かったようです。また、中華料理が食べたい！という回答も多かったので、「日本食はおいしいです！太ってしまいました！」と言っていた生徒たちも、やはり慣れ親しんだ故郷の味が恋しくなるのは自然な事ですね。

QUESTION

日本の年越しをどのように過ごしましたか？

・ホストファミリーが温泉につれていってくれた。露天風呂初体験で、大雪の中で体が浸かってくつろぎながら外の雪山をみて素晴らしかった。
・本当の家族ではない自分にもお年玉をくれて、とても感動した。
・ホストファミリーとたくさん話して、日中の文化の違いを理解した。
・初詣に行った神社は人がいっぱいで、中国国内での廟会（おまつりのようなもの）のようだった。ずっと食べてみたかった憧れのりんご飴を食べた。すごくおいしかったけど、食べにくかった。
・はじめてかまぼこを食べて「何これ？おいしい！」と思った。
・お節料理おいしかった。自分の地元（福州）の料理に似ているものもあった。黒豆がとてもおいしかった。
・福袋を買うために長い行列に並んだ。
・お餅つきをして、すごく楽しかった。
・親戚が集まり、こどもたちはみんな沖縄の伝統芸能ができるので、三線、琉舞、歌、そして私は中国の昆曲ですごくもりあがりました！（沖縄に留学した生徒）



COMMENT

ホストファミリーに温泉につれていったもらった生徒が何名かいました。中国では普段の入浴でも湯船につかる習慣があまりないのですが、皆「とても気持ちよかった」と気に入ったようです。特に寒い北海道で雪を見ながらの熱い露天風呂は格別でしょうね。また、おせち料理に感動した生徒も多かったです。かまぼこと黒豆が好評だったのは新発見でした。ホストファミリーの皆さまが、留学生に「日本の伝統を体験させてあげたい」と、様々な経験をさせてくださり、本当にありがたいですね。皆忘れられない貴重な思い出になったと思います。

日本と中国の年越しの過ごし方の似ている点と異なる点を挙げてもらいました

似ている点

★ 家族・親戚が集まる。
★ お年玉がもらえる。
★ 新年を迎える前に大掃除する。
★ おじいさんたちはたくさんお酒を飲んでよっぱらう。
★ ご馳走を食べる。
★ 夜中までテレビを見てもりあがる。
★ 家の入口を飾り付ける。日本は門松、中国は「春聯」。（※「春聯」とは縁起の良い言葉を書いた赤い紙）

異なる点

★ 中国は旧暦、日本は新暦で正月を過ごす。
★ 中国は年賀状はあまりない。
★ 日本はおそばやお節料理など冷たい料理を食べる。
中国では大みそかの夜に家族皆で食べる食事を「年夜飯」というが、大体は水餃子など温かい料理。
★ 中国では初詣はいかない。
★ 中国は爆竹をならす。（※最近は禁止している都市も多い）
★ 日本は静か、中国は賑やかな雰囲気。
★ 中国では年越しの夜に新しい服を着る。
僕は子供の頃そのことを一番期待していた。

心連心留学日記

日中交流センターのウェブサイトでは、中国の高校生たちが日本での留学生活を綴った日記を公開しています。初めての日本の高校生活、部活動、ホームステイ、修学旅行、、、ひとりの留学生として、彼らが自ら見、聞き、感じ、体験したことを、彼ら自身の言葉で伝えてくれています。このコーナーでは、14期生が投稿してくれた日記の中から、日本で過ごした初めてのお正月の体験を書いてくれた彭子航くんの日記をご紹介します。

謹賀新年

彭　子航くん（大阪府立三島高校／福州外国語学校）

投稿日：2020年1月1日

新年はやっと来ましたね。皆さん、明けましておめでとうございます！

家族と別れて、海外で年を越すのは初めてなのです。日本の文化を体験する一方、ホームシックもあります。中国のみなさんはお元気ですか。

ホストファミリーと一緒に帰省する予定があるので、みんなは30日早く起きました。お母さんは31日に行くので、私達子供4人（大学生のお兄ちゃんも会えました）を駅まで送ってくれました。またいとこさんも会って、五人で一緒に、電車を何度か乗り換えて、京丹後市に着きました。とてもきれいな町でした。海に恵まれて、空気もきれいだし、観光客もたくさん来ていました。私達は遊覧船に乗って、伊根湾を巡りました。タカ、カモメといった鳥でたくさん飛んでいて、びっくりしました。人間と動物は共に生きてよかったです。京都は大阪より大きいですが、こんな場所もあるのは分からなかったで、すごいと思いました。

午後5時ごろ、ついにおばあちゃんの家に着きました。田舎と言われているとしても、駅にすぐ近くて便利です。おばあちゃんは僕といっぱい喋りました。僕は中国のことを紹介できて、おばあちゃんも日本の文化を色々教しえてくれて、嬉しくて、いい勉強になりました。さらに、おじいちゃんは中国のことをいっぱい知ってくれて、とてもすごいです。

大晦日は一緒に蕎麦を食べに行きました。そこの特徴として、皿は小さいけれど、多いです。一口で一皿のそばが食べれて、その一口の満足感は最高です！とても美味しかったです。

夕方、みんなも温泉に入りに行きました。僕にとって、初体験でした。男女別れて入ります。今日は寒くて、あられが降ったけど、お風呂のお陰で、体が暖かくなりました。二階は露天温泉もあって、とてもいい体験でした。完全に赤くなった顔から見ると、すぐ分かります。温泉に入った瞬間に、心に残っているのは幸せのみです。

晩ご飯はいっぱい出て来て、しっかり食べました。一日の御節料理もそうでした（まだ太くなってしまうかも知れないけどね）。ほとんどは冷たい料理で、中国と違います。それに、御節料理は朝に食べるのは知っていないので、中国の「年夜饭」と一緒だとずっと思っていました。おばあちゃんとおじさんが作ってくれた料理は伝統的な日本料理なので、僕は黒豆やこんにゃくなどを食べて、お重と言うものを作る習慣も聞きました。中国と同じ、料理の中に色々なお祝いも含まれています。

今度の帰省を通して、日本文化を満喫できて、やはり中国のこともたくさん見つかりました。例えば、横縦である道も、並んでいる商店も、中国の古い町と一緒で、お祭りの習慣の似ているところもあって、かなり感動しました。一衣帯水の両国は、今後どの程度に発展しても、どんな挑戦に直面しても、その間の絆は永遠に存在します。

最後、皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。昨年はお世話になりました。今年も、よろしくお願いいたします！

彭くんはじめ、26名の14期生の留学日記は、こちらからご覧いただけます。
https://www.chinacenter.jp/diary/index/term:14

日本での留学生活を振り返って

作文集

親元を離れ、異国の土地で過ごした7か月間は、笑いあり、涙ありの充実した毎日でした。
14期生26名それぞれの思い出がつまった作文をぜひご覧ください。

日本にいたころの思い出

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校/上海市甘泉外国語中学
田　多多
TIAN Duoduo

中国に帰って、もうすぐ１ヶ月経ちます、この１ヶ月間に、私は日本に行った時のことをずっと忘れていません。日本にいったころの思い出が、たくさんあります。楽しいことも悲しいこともあって、一番心に残ったことは、ホームステイの時のことです。

私は北海道のとわの森三愛高等学校でこの７ヶ月間過ぎました。ずっと清温寮に住んでいました。　冬休み中は大学生の佐藤さんという方の家にホームステイし、お母さんと三人で、お正月を体験しました。一緒に初もうでに行って、年越しそばを食べたり、お餅を食べたりして、お兄さんも来て、一緒におせち料理とローストビーフを食べました。初めて日本で、日本人の家で日本の正月を過ごして、本当に中国の新年とは全然違って、違う国の新年の雰囲気を体験することができていいなあと思います。それから、小樽にいる佐藤さんのおばあさんの家に行って、すき焼き鍋を食べました。次の日には焼き肉を食べました。そして、おばあさんの誕生日でしたので、紅茶を飲みながら、ケーキを食べました。とても美味しかったです。日本人はこのように誕生日を過ごすことが初めてわかりました。

それから、佐藤さんの家から移動し、黒川さんという方の家でホームステイしました。晩ごはんは自分で焼き肉を焼いて食べました。次の日に博物館に行って、その後寮に帰りました。日本人のホストファミリーはみんな親切で優しい人です。できれば、将来また、日本に来てホームステイをしたいです。

冬休みが終わり、学校が始まりましたが、すぐに、コロナウイルスの影響で休校になってしまい、学校に行けないので、寮生のみんなは家に帰ることになってしまいました。私は寮で一人になってしまいましたが、学校がホストファミリーを探してくださり、酪農学園大学の先生の家に行きました。

先生の家には、とてもかわいい犬がいました。最初は、私に近づかなかったのですが、すぐに私と遊ぶようになりました。夜は、私は和室で寝ることになりました。初めて日本の和室に入りました。本当に、アニメの中にでてくる日本人の家とほぼ同じで、まるでアニメの中に入ったようです。夜は、お母さんはカレーライスを、私に教えながら作りました。ある日、先生の親せきのむすめさんが来て、一緒にたこ焼きを作って食べました、その女の子は私と同じ年齢で、16 歳でした。私たちはいろいろなことをおしゃべりして、午後にお母さんはケーキを用意していました。その子は生クリームを食べないので、生クリームを全部私にくれました。このようにして楽しい一日が過ぎました。楽しいホームステイの生活も終わりました。3 つのホストファミリーの家でホームステイをすることができて、3 つの家庭の違いを体験して、日本人の家はこのようだったということがわかりました。

寮に帰って何週間経ってから、新型コロナウィルスの影響により、帰国することが決まり、それで中国に帰ることになりました。日本にいる間のこと、ホームステイの時のことはずっと心に残ります。とてもいい経験になったと思います。心連心プログラムはこの機会を私にくれまして、とても感謝いたします。

夢の留学

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 / 太原市外国語学校
史　錦超
SHI Jinchao

日本の高校に入ってアニメの主人公のように部活をすることは僕の夢です。僕はその夢を持って「心連心」に参加しました。最初日本に来たばかりの時、学校の先輩やクラスメートと話すのも恥ずかしくて、友達を作るとか交流にぜんぜん自信はなかったです。でも幸いなことにその時ちょうど学校行事がいっぱいありました。集団活動のおかげでクラスメートとだんだん慣れました。

球技大会の時、自分はバドミントンに参加しました。負けたけど一緒のメンバーと仲が良くなりました。そしてバレーボールのチームに入った先輩を応援している時、試合の激しさにびっくりしました。先輩は部活生じゃなくて趣味だけです。なんでそんなに強くて熱心にスポーツもしているのか。その後友達と話して少しわかりました。日本の生徒としては、学校生活には勉強だけでなくスポーツも重要です。保健体育の授業でも、スポーツに関わる仕事についての話を聞きました。実は留学期間に一番印象に残っているのは、雨の中のサッカーの応援です。それは北海道選手権大会の時の全校応援です。選手は雨の中で試合をやって、みんなは雨の中で応援しました。

学校の先生に聞いたのは、とわの森に来る中国留学生の中で僕は初めてクラスで研修旅行に行った人だそうです。研修旅行の目的地は沖縄です。北海道は日本の北で、旅行の行き先の沖縄は日本の南です。自然環境が全然違って両極とも言えます。研修旅行中はよく友達を誘って美味しい沖縄料理を食べに行きました。夜も曲を流して、日本や中国の流行ってる曲について話しました。今も忘れられなくてよく思い出します。やはり集団活動でクラスメートや先生と仲良くなりました。

沖縄から帰ってからずっと悩んでいたのは日本語です。日常の会話はだいぶできますけど、僕の使っている日本語は日本語らしくないです。「日本語上達したい。」それはその頃の心からの声です。「言語って意味が通じるのが一番大事だ。使いながら上達するんだ。」友達はそう言います。留学中、ストレスがけっこうあったと思います。「せっかく来たんだから ...」「日本語を上達させなければ…」などの気持ちがよく出てしまいました。それはいいことだけど、方法は間違いました。夢の留学だから一生懸命頑張るのは当然だけど、無理をしないのは大事だと思います。

心連心で日本へ行ったのは僕にとっては夢の留学でした。日本の友達からもいろいろ勉強しました。とてもいい経験だと思います。将来の人生に絶対役に立つと思います。

思いを響かせ、時を刻む

立命館慶祥中学校・高等学校 / 済南外国語学校
王　籽陸
WANG Zilu

日本での留学生活があっという間に終わりました。結局、世界でコロナウイルスが広がっている故に、緊急帰国になってしまったという結末は誰にとっても残念だったと思います。大連から済南に戻る飛行機で、日本で過ぎた７ヶ月間の思い出が走馬灯のように頭の中でずっと巡り回り、友達の微笑みと涙を混ぜて、その一瞬で不安な心も落ち着いたような気がしました。

去年の９月、初めて北海道についた時は土曜の午後でした。来たばかりなので寮のルールとか何もわからなかったけれど、隣の寮生が進んで私を連れて食堂での食べ方とお風呂に入ることを教えてくれました。寮長さんもいつも私のことを気にかけてくれていました。寮についた２日目に、寮長は私を連れて寮の周りのコンビニとスーパーマーケットを見に行きました。そして必要な日用品を買うことができ、本当に助かりました。それに寮長は私が寂しいかもしれないと思って、高２の学生を紹介してくれて、早速友達ができるように力になってくれました。

９月の秋が終り、北海道の冬は随分早く届き、気温もだんだん下がって、いよいよ雪が降り始めました。周りの先生たちもこう言いました。「本物の北海道は冬だよ。」本物の北海道は、温度が寒ければ寒いほど、心が熱くなってくることです。私の誕生日もどんどん近づいてきて、その日の放課後、友達は私と一緒に大通公園に行きました。それに日本高校生の伝統的な活動“カラオケ”をしました。歌を歌ったことよりも、みんなの笑い声が一番楽しくて、一生忘れない一日でした。帰り道に、雪がビルから反射する光と溶け合って、眩しく幻のような札幌に私は浸っていました。

冬休みを過ぎても、雪は止まりそうではなく、そんな寒い日々に私は剣道部に入りました。剣道は自分にとって完全に新たなもので、新人として不安な気持ちが抑えがたく、初めて稽古場に行った時、とても緊張して何を言ったらいいかわかりませんでした。しかし部長と部員の笑顔を見た瞬間に、怖さが潰れて、かつて私は日本人との人間関係を悩んで、怖がりながら、日本人は冷たく、付き合い難いと勝手に判断したことを後悔しました。今から見れば、文化でも社会環境でも、その違いは人と人の心の間の交流を止められないということを明確に感じました。

時間は滝のようで、流れてしまうと戻ることはなく、ただひとつひとつの場面が頭の中で未だに残っています。寮から離れたあの日、何もない自分の部屋を静かに見回し、ぼうっとしているうちに、いつのまにか寮にいる友達はもうこっそり私の後ろにきていました。みんな笑って見送ってくれたからこそ、私も笑いながら、今後の困難に直面すべきです。この７ヶ月間の思い出はきっと忘れることはなく、永遠に心に響いています。もし、私も誰かの人生の中で、色のある記憶を刻むことができていたらいいなと思っています

では、いつかまた会いましょう！

貴重な経験

盛岡中央高等学校 / 中山市小欖中学
谷　子毅
GU Ziyi

このような名言があります。「見れば見るほど分かります。見たり聞いたりしたことはすべて貴重な経験で、すばらしい思い出です。」私は思いがけず、人生の高校の段階で海外留学することができました。

私は周りの人が海外に留学できることに憧れていました。彼らはいったいどんな生活を経験しましたか？私も体験したいです。私はチャンスをつかんで、心連心プログラムに選ばれた時、まるで理想の大学に合格した時のようにわくわくしました。心連心プログラムの条件はとても厳しいです。その中のひとつが、日本語能力が N2 のレベルに達することです。私はまだ達していませんが、言語の才能に自信があります。恥ずかしくて話せないことはしない。むしろ日本人と話したいです。外国人と話す時はいつもドキドキしています。だから、私の会話能力も悪くないと思います。このようにして、中国の全国各地の心連心プログラムに選ばれた学生たちと出会い、一緒に日本へ出発しました。

日本の東北の岩手県の 9 月はまだ暖かい時でした。私は季節の変わりの目のこの時、盛岡中央高校に通いはじめました。残念でしたが、その時升龍祭はもう終わって、定期テストを行っていました。始めは順調ではありませんでしたが、大丈夫、時間があれば、なんでもできる。私もあまり友達を作ることに目標を設定せず、このことは縁に任せると思いました。いろいろなきっかけによって、私は友達を作りました。そして男子がいない茶道部に誘われて、入りました。日本の茶道文化をよく体験し、伝統的なことをいっぱい勉強しました。学校の授業で、いっぱいわからないことがあるけども、クラスメイトたちも助けてくれて、楽しかったです。学校の先生たちも時々私に「最近はどう？元気ですか？」と話しかけてくれました。私もいつも担任の先生に数学の質問を聞きました。私は担任の先生の数学の授業が大好きです。いつも面白いことを話して、楽しかったです。

私は普段は下宿生活をしていますが、初めてのホームステイは正月の時で、学校の先生の実家で充実した時間を過ごしました。岩手県の冬は長かったです。北の冬はまた新しい体験でした。それから、また学校に戻り、勉強が始まりました。どんどん、クラスメイトたちと仲良くなりました。でも、あくまでクラスメイト以上、友達以下の関係と思います。

2 月末、私の留学生活の間で一番楽しい時期でした。その時、インドネシアの留学生たちが日本に来て、盛岡中央高校で一週間勉強しました。私と 11 月から日本にきていた 2 人のタイの留学生たちと一緒に、学校が留学生のために準備したイベントに参加しました。私たち 3 人、日本語で交流して、英語でインドネシアの留学生たちと交流し、先生が理解できるように日本語に訳しました。また、有名な場所に行って、茶道と書道を体験しました。

残念ですが、コロナウィルスの原因で、早めに帰国になりましたけど、最後は、クラスメイトの皆さんが私にプレゼントを贈ってくれました。本当に感動しました。

今回の留学生活は終わったけど、貴重な経験を手に入れました。きっと次の留学に役に立つと思います。

感謝の花束を皆さんに

明桜高等学校 / 広州外国語学校
肖　筠
XIAO Jun

日本にいる間、ずっとホストファミリーのお父さんとお母さんと一緒に暮らしていました。お父さんは話し上手です。とても物知りで、いつも私に日本の昔の生活や面白いことを沢山教えてくださいました。お母さんは静かな人ですが、日常生活のさまざまなことを助けていただきました。毎朝 6 時に起きて作ってくださったおいしいお弁当は、私の日本の母の味です。本当に温かい家庭です。これまでホームステイを受け入れた各国から来た留学生は 80 人以上もいたと聞いて、驚いたのと同時に「私はなんて幸運なんだろう」と感じました。お二人にホストファミリーをやっている理由を聞くと、「日本語には一期一会と言う言葉があるよ」とおっしゃいました。私達の出会いは一生一度だけの縁です。一緒に過ごした時間は一番大切です。もしかしたら、もう二度と会えないかもしれないですが、だからこそお互いのことはきっと忘れないでしょう。

ホストファミリーの両親とはいろいろな時間を過ごしました。お父さんは私を連れて、秋田の海を見に行きました。とても美しい景色でした。また地元の伝統的な建物も見に行きました。秋田の田舎と東京や大阪などの大都市の違いを深く感じました。去年 10 月、昔ホームステイをしていたブラジルの留学生が、ドイツ人の彼氏と一緒にお父さんお母さんに会いに秋田に戻って来ました。私達はご飯を食べたり、話をしたりしながら、いろいろな外国の話を聞きました。言葉は確かに国と国の違いを越えられることを体感することができました。貴重な思い出です。

もちろん学校でも忘れられないことがいっぱいあります。先生達はとても優しくて、市川先生は東京まで迎えに来てくださいました。担任と副担任の先生方にも学校の生活でいろいろお世話になりました。例えば、私が早く新しいクラスメートとうまく付き合えるように、校外活動を開いてくださいました。クラスの皆さんは優しくて、体育の授業で一緒にバレーボールをやったり、昼休みに「一緒にお弁当を食べよう」といつも誘ってくれました。だから学校で寂しいとは感じませんでした。10 月には学校祭があって、1 年生はフリーマーケットをすることになったので、一緒に用具を準備したり、学級旗を描いたりしました。皆さんがクラスのために頑張っている姿を見て、深く感動しました。学校祭は実は当日より事前準備のほうが楽しいと思いました。帰国する前には、担任の先生とクラスの皆さんが送別会を開いてくれて、ゲームをやってたくさん笑いました。それに沢山のお菓子をくれました。また色紙に一人一言を書いて、その色紙を贈ってくれました。こんな素敵で優しい人たちと出会えたのは本当に幸運だと思います。

一番忘れられないのはバトミントン部の部員達です。先輩達は私にグリップの握り方や足の動きなど細かく教えてくれました。脚がつった時も、部員達がみんなで助けてくれました。部活の時、皆さんは大声を掛け合って、練習していました。最初は本当に驚きました。先生に理由を聞くと、「こうすれば、自分ひとりではないと感じられ、もっと頑張って練習できるからだよ。」この言葉は私の心にずっと強く響いています。確かに、部活の時に自分がチームの一員だと感じられました。私は絶対にバトミントン部のみなさんを忘れません。

楽しく学びの多い時間はあっという間でしたが、毎日充実して過ごすことができました。こんなに沢山の人と出会い、話し、楽しい思い出を作れるとは思いませんでした。いつかこの感謝の気持ちを皆さんにもう一度届けられる日が来るように、これからも努力を続けます。本当にありがとうございました。

風が語りかける

埼玉県立蕨高等学校 / 済南外国語学校
陳　儀
CHEN Yi

留学生活を感じる心象に言葉で接近してみようと思います。記憶の束から思いつくままに引き抜いてみると、“風”が目に浮かびます。風は、自然現象ではなく、風と感じる感受性や心理です。

9月の頃、私の留学先である蕨高校は徒歩大会を行うため、体育の授業では散々走る練習でした。800メートルさえも息を切らすほど体育が苦手な私にとっては、埼玉の激しく照りつける太陽の下、学校の外縁に沿って40分間ずっと走るのがあまりにも死ぬほどしんどくて、絶対に耐えられないと思っていました。強い日差し、目や口にどんどん流れ込んだ真珠のような汗、それに汗で薄ぼけた時間と永遠に追いつけなそうに見えたみんなの後ろ姿など、いつもみんなの最後に走り切った辛さと孤独のせいか、一時は週に2回の体育の授業は悪夢かのように私を怖がらせました。

そんな時、清々しい風が送られてきました。

「お疲れ様～」こう言ってくれたのは、にこにこ笑っている女の子でした。

その子はあだ名が“ゆず”で、運動神経抜群な体育委員です。ある日走り終わってみんなの集まる所に寄る時、心のこもった笑顔で彼女に「お疲れ様!」と言ってもらいました。私より10週以上多く走ったのに全く疲れた様子はなく、ただ純粋な笑顔で私を癒してくれて、その笑顔は爽やかな春風のように、心地良く吹いて来ました。それで次に走る際は、不思議に何か使い放題の力が自ずと湧いてきたのでした。向かい風のはずなのに追い風になり、風から馴染んだ笑い声が送られました。その声を聞くと、自分はひとりで走るのではないと感じ、自然と安心し、何か莫大な勇気が与えられました。――それが私を支えてくれるものでした。

こうして、体育のしんどい練習にだんだん慣れ、少しずつ進歩も見えるようになり、最後は随分楽しんでいました。それを契機に、留学中に色んなことに挑戦してみました。埼玉県高校美術展に出品した達成感と満足感、苦労を費やし何度も直されたスピーチ原稿、英語ディベート大会で蕨校が勝利を収めた自慢と喜びなど、今でもはっきりと憶えています。出品する作品にアドバイスと評価をくれて、スピーチ原稿を何度も読んで意見を出して、ディベートでは一緒に作業して、私を励まし、背中を押し、支えてくれた人々のおかげでこれらの豊富な経験ができたのです。いつの間にか、私は様々な人々にめぐり逢い、付き合ってもらいました。彼らはふんわり吹いている柔らかい風のように、心のイライラを吹き飛ばし、代わりに前に進む勇気を運んでくれます。

私はかつて、誰にも頼らないように自分の力で生きて行くのが立派な大人だと勘違いし、極めてそういう人間になりたがっていました。ところが、親しい地元を離れて見知らぬ異国に来たら、お互い支え合って生きることの大切さを体感しました。

今の私は、埼玉でめぐり逢った人々との一緒に過した日々は私にとって掛け替えのない宝物になったと感じています。自分も風になり、また埼玉へと吹いて行きたい。私の親愛なる埼玉へ。

拝啓、少年よ※

東京学芸大学附属国際中等教育学校 / 天津外国語大学附属外国語学校
東　亦菲
DONG Yifei

「あぁ、もう泣かないで、君が思う程に弱くはない」※

この歌をそっと口ずさむと、音楽部で練習していた頃の思い出が浮かび出します。スクールフェスティバルの時、舞台でキラキラしている音楽部のみんなに惹かれて、私も歌が好きでこの部活に入りました。でも、歌を趣味にしているだけの私は、初めてバンドに入って、友達と一緒にライブの発表を準備する時、いつも観客の視線に直面する勇気がなくて、緊張しすぎて声が出ません。その時、バンドのリーダーが言った言葉は私に大きな励ましを与えてくれました。「えっちゃんの歌声は本当に綺麗だよ！みんなとの協力もだんだん上手になった。だからこのような歌声をもっと多くの人に聞かせて欲しいなぁと私は思ってたの。ほら、この歌詞、えっちゃんに似合わない？だからもっと勇気と自信を出して、一緒に頑張ろう～。」その後、私はもともと歌えなかった高音部分も上手くコントロールできるようになりました。人生初のバンドとして発表した曲「拝啓、少年よ」もよく完成しました。

留学によってもたらされた新しい環境と人間関係は、いつも私達に緊張と束縛を感じさせましたが、今回の音楽部での突破をきっかけに、その後の留学生活に向かう勇気と自信が出てきました。初めて油絵を描くこと、初めて日本語でフランス語を勉強すること、初めて日本の伝統芸能を現場で鑑賞すること、初めてクリスマスケーキを作ること、初めてスキーのシーズンスポーツに参加すること、初めて桜の森を散歩すること……この７ヶ月間に経験した様々な“初めて”は一生忘れられない体験であり、貴重な経験でもあると思います。

中日両国は同じアジア国家に属し、「一衣帯水」の隣国であります。人々は肌の色も顔も似たようなところがあります。しかし、日本語専攻の私たちでも、日本人と交流し始めたばかりの頃は、やはり「空気の壁」が感じられます。これは両国の文化の違いと交流の重要性を意識させました。日本の文化を理解し、日本語の勉強を続けたいという思いがいっそうかき立てられました。そこで、両親と相談した後、私は自分に「日本の大学に進学する」という目標を立てました。

複雑な数式や難しい単語は時間とともに忘れられていくかもしれませんが、心の変化や目覚めは一生の宝物だと思います。心連心プログラムに参加することを通して、私は以前の麻痺していた状態から抜け出してきました。旅路の涯はまた新たな始まりであり、これから私は今回の留学から得た経験を生かして、しっかり前に進んで行きたいと思います。

「負けっぱなしくらいじゃ終われない　遠回りくらいがちょうどいい」※

歌が最後のサビに入り、留学生活も新型コロナの影響で早めに終わりました。友達、先生達、ホストファミリーのご両親とちゃんと別れられなくて、本当に残念ですが、未来はまた会えると信じています。

最後に、お世話になったみなさんに心から感謝したいと思います。ありがとうございました！

※ Hump Back の曲「拝啓、少年よ」の歌詞から一部引用

出会いは大事

明治学院東村山高等学校 / 蘇州外国語学校
付　佳凝
FU Jianing

「出会いを大事にすること。」

来日研修の講演会で、先輩がそう言いました。

あの時、ペンをしっかり持ってメモを取っていた右手が一瞬止まってしまって、心が何故かちょっと重い感じがしました。その感動は今でも鮮明に覚えています。「この一言の後はどんな期待と挑戦が待ってるのか」と、帰り道にずっとそう考えていました。

未知は望みになるかもしれませんが、私はいつも楽しみにしています。あれからの７ヶ月で沢山の「初めて」と出会うことができました。初めてホストファミリーのお母さんと会ったとき、彼女はわざわざ中国語で「はじめまして、よろしくお願いします。」と言ってくれました。毎回毎回思いだすと、これは愛情であろうと思って感動します。それは最初の「大事な出会い」でしょう。それからも色々ありました。初めて金山神社に行って、初めてのお祭りを体験しました。学校で初めて礼拝に参加し、初めて日本人である同級生と友達になりました。毎日毎日新しくて、その喜びは絶対に忘れません。日常にも「初めて」の挑戦がいっぱいありました。初めて自分で電車を乗り換える時、駅の中で迷いましたが、最後に冷静になって、ゆっくり思い出すことができました。色々な「初めて」は人生の財産になるでしょう。

文化と人間の出会いは同じことでしょうかと考えました。私がいた東村山市は東京オリンピックでの中国のホストタウンです。ちょうどオリンピックの前でしたので、市のイベントに沢山参加させていただきました。おかげさまで市役所の職員の方々と協力できて、文化の交流について努力しました。日本に行く前は少し不安でしたが、みんな優しくしてくれて、自分も頑張らないと、と思いました。この世界には、平和と幸せのために一生懸命努力している人がこんなに多くて、よかったと思います。私自身も、文化交流のために頑張ったという光栄な達成感が感じられます。

たった７ヶ月の間で、私は沢山の助けをいただきました。友達、ホストファミリー、先生とその他の方々からの助けが今の私を作ったように、サポートだけでなく人生の新しい道を紹介してくれました。愛というものは地域と言葉に限らず、この地球のどこでも、いつでも発見できます。愛と愛の出会い、それはこの世界を美しくしました。友達との最初の旅も、先生が教えてくださった知識も、お母さんの手作りのお弁当も、オリンピックのポスターも、全ては縁の結果、愛の結びではないでしょうか。

７ヶ月はちょっと短かったですが、残念とは思いません。このチャンスがあってよかったです。出会いは夢より綺麗で、記憶の中で私と共に成長することを信じています。皆さま、どうもありがとうございました。

一生の宝物

長野県長野西高等学校 / 西安外国語大学附属西安外国語学校
孟　沁培
MENG Qinpei

昨年の９月､16歳の私は一人で日本に来ました。７ヶ月が過ぎましたが夢のような気がします。

私の母はかつて日本の企業で働いていたので日本語もわかります。子供の頃、母が日本文化について話してくれるのを聞いて、私の心の中に日本への関心の種が生まれました。 一昨年の夏休みに、この種は発芽したようです。私は日本語に興味を持ち始めて、外国語の高等学校に入り日本語の勉強をしています。

心連心プログラムの日本留学の面接試験に合格し、この機会を得られたことが私にとってどんなにラッキーで楽しいことか。一方、私の日本語のレベルで日本人と交流ができるか、日本の高校の授業を聞き取れるか、食べ物に適応できるか、クラスやホストファミリーに溶け込むことができるか､､､様々な不安を抱えて長野西高校へ足を踏み入れました。その日、国際教養科の宮沢先生が学校を案内してくれました。すべては私が見たアニメと同じような学校の風景、学校生活でした。私は大きく息を吸い込みました。自分の頬をぐっとつねって「夢じゃない!」いつの間にかクラスの入り口についていました。担任の先生に、自己紹介をするように言われ、日本語で「皆さん、今日は」と言いました。みんなは「すごい！上手!」と私を励ましてくれました。

みんな優しく私を温かく迎えてくれて、これまでの不安が消えていきました。その後、クラスメイトと一緒にお弁当を食べたりして、学校生活の中で交流を深めていきました。クラスメイトは私が日本語を勉強した時間が長くないことを知っているので、ゆっくりと話してくれます。私のクラスは国際教養科で、第二外国語に中国語の授業もあるので、私は彼女たちに中国語の発音を教えたり、中国の文化について紹介したりしました。

時間が経つにつれて､私の日本語のレベルも上がり、交流を深める中で中国と日本の相違点についても勉強しました。身近な人と接触する時、私は日本人の謙虚さを実感しました。クラスメイトはよく「ごめんなさい」と言います。日本ではミスがなくてもこの言葉を使うことが多いですが、中国では日本のようには使いません。中国での「ごめんなさい」は謝罪であり、過ちを認め、責任を負うことを意味します。だから、日本人のように使いません。また、日本では食事の前に「いただきます」と言います。中国でも食事を作った人へ感謝の気持ちを伝えることはありますが、これに相当する言葉はありません。この言葉には食べ物に対する感謝の気持ちが表されていることが分かりました。

学校生活では、クラブ活動は美術班に入りました。普段はみんなで絵の準備をしたり、ポスターの企画に参加したりしました。昨年秋の北信美術展では、京劇に登場する人物のデッサンを描いて出しました。みんな同じ興味を持っているので、コミュニケーションを取りやすく、班活動の時間はとても楽しい時間です。

日本へ来て、多くの事がありました。日本と中国の文化、言語、習慣の違いも発見しました。私は初めて本場のお寿司を食べ、日本の映画を見ました。学校では日本語で授業を受け、英語の合宿に参加し、クラブ活動に参加し展覧会に参加しました。着物も着ました。とても充実した７ヶ月を過ごすことができ、私が出会った全ての人に感謝したいです。

７ヶ月の間本当に素晴らしい思い出がありました。色々な風景を見て、色々な面白い人に出会ってよかったなと思っています。私が一生大切にしていきたい宝物です。

色々、ありがとうございました！！！

経験

桜丘高等学校/北京市月壇中学
越　菲颺
YUE Feiyang

日本に行くのは初めてではありませんでしたが、勉強の為としては初めてでした。飛行機に乗っている自分は緊張していましたが、楽しかったです。未来には何があるか全然わからなくて、ちょっと心配していました。

私は桜丘高校の寮に住むことになり、同じ部屋の友達は中国人だと知り、その時ちょっと安心しました。中国人だから、話しやすくて、いろいろ教えてくれることができると思いました。いいところもありますが、一番よくないことは、中国人同士だから、自分はよく中国語を話してしまったことです！

実は、日本の友達は優しくて明るいと思います。初めての登校日、みんなは私を誘って、一緒にお昼ご飯を食べたり、歩いたりしました。楽しかったです。学校の先生も優しくて、いろいろ教えてくれました。

ホームステイの時間は少なくて、ときどき週末の時、上脇さんというホストファミリーの家に行ったり、祝日の時は学校の友達のお家に行ったりしました。ご飯は美味しくて、毎日楽しかったです。ホームステイの時間は、日本語を高めるには一番いいチャンスだと思います。ホストファミリーとよく交流して、手伝うこともいろいろあると思いました。いい経験で、日本語もうまくなったと思いました。

心連心プログラムに参加して思ったことは、友達をつくりたいときは自分から話しかけることです。私はそんなに明るい人ではないと思っていて、日本語もそんなに上手ではなくて、何を話したらいいかわからなかったです。よく友達から話しかけてもらうことを待っていました。10 月と 11 月は、自分は一番慣れてないときだと思いました。毎日、クラスメートとの交流が少なくて、お昼ご飯も寮に戻って、1 人で食べました。学校にも行きたくなくなりました。中国に帰りたかったです。ある日からずっと、「クラスメートは私と話したくないのだろう」と思って、全然話さなかったです。しかし、12 月に行われた研修のおかげで、気分転換になりました！どのようにクラスメートともっとよく交流すればよいかを勉強しました。12 月から、私は自分から話しかけて、明るくクラスメートと交流するようにしました。クラスメートは、実は私と話したいと思っていました。ずっと自分ひとりでいろいろ考えていたけれど、その時の意味、今になったら全然わからないです。私はずっとクラスメートに感謝しています。自分からクラスメートと話さなくても、クラスメートも明るく私と交流します。いろいろな中国についてのことを私に聞いて、よく私の生活などに関心がありました。クラスメートたちは優しくて、ずっと私のことを包容してくれて、本当にありがとう！

4 月になり、急に中国に帰ることになり、残念でした。でも、クラスメートたちと約束して、来年また日本に行って、クラスメートと遊びに行こうと思います。クラスメートは良く遊んでくれたり、いろいろ話したりして、楽しい時間を過ごしました。学校の先生と日中交流センターの先生もいろいろ教えてくれて、たくさん助けてくれました。ずっと感謝の気持ちを持っています。ホストファミリーもずっと連絡しています。また会いたいと思います。

日本にいる 7 ヶ月はいろいろな人を見て、たくさんの友達ができて、楽しかったです。辛いこともありましたが、楽しいこともいっぱいありました。辛いことより楽しいことのほうがたくさんあり、いい経験になりました。皆さん、ありがとうございました。

忘れ難い旅

光ヶ丘女子高等学校 / 北京外国語大学附属外国語学校
王　怡安
WANG Yian

桜の花びらが舞い落ちた時、私たちの旅は終わりになりました。コロナウイルスの影響で、終わりは予想よりちょっと早くなってしまいました。けど、この思い出は本当に私の今までの人生で素晴らしいことだと思っています。

去年の春に、学校の先生にはじめてこのプログラムのことを聞きました。「日本への憧れをやっと叶えることができる！」と思いました。絶対このチャンスを逃さないように、いろんな努力をしました。その結果は、本当に成功しました。そして、この物語ははじまりました。

最初の頃は、不安と期待で胸が充たされていました。留学先の岡崎についてから、この町の美しさにびっくりしました。岡崎は、そんなに都会じゃないけど、とても静かな町なんです。そして、私の学校に行きました。光ヶ丘女子高等学校という学校です。光ヶ丘は、カトリックの学校です。それから、私の毎日は宗教の雰囲気がすごく濃い環境ですごしてきました。

私は、国際教養科のクラスに入りました。最初は、皆は留学生のことをどう思うかという事がすごく気になっていました。皆は、私を嫌がるかもしれないとか、うまく友達ができないかもしれないとか、そんな悩みと不安をすごく感じました。でも、クラスの皆はすごく親切で、優しくしてもらいました。不安は、初めての日で全部消えました。

皆と仲良くなるきっかけは、文化祭と体育大会でした。前にいつもアニメと漫画の中でよく見てきたことを、本当に自分が現実に体験するなんて、まるで夢みたい！文化祭で、初めて光ヶ丘の吹奏楽部と合唱部の演技を見ました。高校生がこのぐらいのすごさを持っているなんて、びっくりました。そして、文化祭の食べ物たちも美味しかった。初めてできた日本の友達と、楽しい思い出を作りました。

12 月 27 日までは、私はずっと寮に住んできました。寮母さんたちはすごく優しかったー！日本についたばかりの頃、ひどい風邪を引きました。寮母さんたちは、薬を買ってきてくれて、お医者さんに連れていってくれました。そして、食事を作っている方たちも、特別にお粥を作ってくれました。皆の優しさに、感動しました。部活の時間も結構充実して、楽しかったです。私は家庭科部に入りました。毎週 3 回あります。同級生も先輩たちも、皆優しくて、知らない作り方や、レシピの分からないところとか、先輩たちはすごくねばり強く教えてくれました。そして、顧問の先生もよく私に作るチャンスをくれました。

また、一番忘れ難いのはホームステイ体験です。私は 4 軒のホームステイ先に滞在しました。最初のお宅でお正月を過ごしました。伝統な日本正月といろんな日本文化を体験したり、理解することができました。そして、次は私の仲良しの友達の家に行きました。毎日つくってくれた料理は最高である！そして、猫ちゃんも可愛かった。ここでは美味しい日本料理を食べました！次の家では、自転車の通学を体験しました。そして、いろんな日本っぽいところも行きました。なばなの里のイルミネーション、桜はとても綺麗でした。そして最後の家では、いろんな神社を訪ねました。そして、日本の JK 文化も色々分かってきました！

このプログラムで、本モノの日本高校生活と日本文化を学び、いろんな知識と礼儀も理解しました。友情と成長も得ることができました。今は帰国になりましたけど、その気持ち、その感動はずっと心の中に永遠に残り続けるでしょう。

運命で結ばれている私達

三重高等学校/成都外国語学校
胡　軼睿
HU Yirui

突然の疾病が全世界を席巻して、多くの人はそれによって受難し、私も予定より早めに留学生活を終えました。この間、たくさんのいい思い出があって、たくさんの友達ができました。私はきっとこの経験を大切にすると信じています。

去年の９月に私は心連心プログラムで日本へ行きました。最初はとても緊張でした。外国で１年を過ごすためには、ストレスが確かに大きいです。でも以前、中国の学校のプログラムで日本の学校へ１週間ほど行ったことがあります。ちょうど今回、心連心で留学したのが、その時と同じ学校だったことは幸運だったのでしょう。

まず問題になるのが言葉の問題です。Ｎ２を持っているけど、みんなが話していることがよくわかりません。みんなは早口で、省略されている部分もたくさんあって、それに関西弁が加わり、本当に意味が分かりにくいです。でも友達が親切に一つ一つ説明してくれて、だんだん理解できるようになりました。例えば“坐らへん”とか“わからん”とかです。皆さんの日常の会話に慣れてから、私も彼らの速い会話がわかるようになりました。言葉の問題が解決して、本当に嬉しかったです。

三重高に入学して１ヶ月後に、私は将棋部に入りました。最初は何のルールなのかさっぱり分かりませんでした。部長が教えてくれて、そしてゲームを始めました。その時ずっと負けていて、部長が７枚を譲ってくれても勝てませんでした。それから毎日対策を考えていました。携帯電話にも将棋のソフトがダウンロードされていて、毎日練習していました。１２月の研修の時に、「部長に勝ちたい」という目標も作りました。残念ですが、将棋部のほかの人には勝ったことがありますけど、部長に勝つのは実現できませんでした。

一番印象に残ったのはもちろん文化祭です。全校生は自分で面白いプログラムを考えて、そして実施して、とてもすごいと思います。私はコーヒーカップと御神輿の作り立てに参加しました。皆さんは鋼管、木材、鋸などを上手に使っていて、終わった後も全ての釘を木材から取り出して切り分けました。本当にすごいと思います。それにいろいろな食べ物も食べて、友達が出演した演劇も見に行きました。とても楽しかったです。

私は日本で他にもたくさんの面白い事を経験しました。残念ですが、最初の予定であった７月まで日本に残ることができませんでしたが、私はこれらの経験を人生の最も重要な財産だと思います。後で思い出した時、きっとこの上ない満足を感じることができるでしょう。

自信を持って行こう

大阪府立桜塚高等学校 / 洛陽外国語学校
高　夢月
GAO Mengyue

2019 年で、一番幸運なことは、「心連心」に合格したことです。日本語の成績がそんなによくない私は合格するとは思ってなかったです。経験を積むという気持ちを持って、積極的に準備して、面接のために北京に行きました。たぶん私の笑顔と明るい性格が、面接の先生に印象を深く残した原因です。私は北京でうまく行きました。こうして不思議な日本での留学生活が始まりました。

ドキドキと緊張の気持ちを持って、日本に到着しました。すべて新しい、見たことなかった景色です。新海誠のアニメの中のように、夢みたいな景色は本当に存在していますね。しかし、日本語のコミュニケーション能力があまり高くない私は、交流の面で苦労しました。ラッキーだったのは、大阪人はみんな心が熱いし、親切な人です。もちろん、学校のみんなもそうです。初めて 2 年 7 組の教室に入った時、大変緊張しました。「みんなとうまく仲良くできるかなー」「友達がちゃんとできるかなー」とドキドキしていました。でも、担任の先生の優しさとクラスメートの熱意は私を安心させました。クラスメートも、私の気持ちを考えて、ゆっくり話してくれました。私の話すスピードが遅くても、真面目に聞いてくれました。とても感動です。ホストファミリーも優しくて、いろいろわからないところを少しずつ教えてくれました。

日本での初体験は想像以上におもしろかったです。当然、最初は理解できないところもあります。例えば、日本人が氷水が好きで、朝も冬も氷水を飲みます。胃の調子が弱い私は、ちょっと苦手です。でも慣れたら、「あっ、日本人はこんな感じかー」と思いました。だんだん日本の文化と習慣を理解して、受け入れることができました。そんなに難しくないことです。逆に、とても新鮮なおもしろい文化です。日本と中国は近いですが、全く同じ文化ではないと思っています。そのとおりで、中国も日本も、それぞれが持っている文化の美しさがあります。

冬の頃から、日本での生活に完全に慣れました。友達もできて仲良くしました。毎日毎日元気に、充実した生活を過ごしました。でも、元々の私は自信がなくて、知らない人と交流するのが苦手な人です。性格も照れやすい人です。今回の心連心プログラムも、自分自身を変えたい、自信を持った、自立した人になりたいと思って挑戦しました。勇気を出して、難しい第一歩を踏み出して、少しずつ自分を変えました。友達と、ホストファミリーと仲良くしました。深い繋がりができました。休みの時、大阪の美しいところを発見して、美味しいお店で食べてみる生活は最高だと思います。景色が好きで、たくさんの写真を取りました。美味しい料理が好きで、たくさん美味しいお店を発見しました。とても楽しかったです。

今回の留学生活は、残念ですがコロナウイルスが原因で途中で中国に帰りました。でも、やはりみんなの健康は第一です。不思議な留学生活で、たくさん貴重な宝物をもらいました。国家を乗り越えた友情、ホストファミリーとの本物の家族みたい感情、自信と自立と諦めず最後までやるいろいろな精神です。みんなに会って本当によかったです。このつながっている感情は忘れない思い出だと思います。大切な経験は私にとって、成長の道であり本当にとても貴重な宝物です。これからの生活も、いっしょに自信を持って行きましょう！

かけがえのない16歳という時

大阪府立三島高等学校 / 福州外国語学校
彭　子航
PENG Zihang

５月に入ってから、福州市はだんだん暑くなってきました。私は去年９月の秋風に乗って、日本に行きました。その時は涼しかったです。

小学校の頃から、名探偵コナンのアニメをよく見ています。周りの友達の中には、新一君やキッドさんのことが好きな人が多いですが、私は平次君のことが好きです。平次君の関西弁も気づきました。そして、私は平次君がきっかけで、大阪が好きになりました。嬉しいことに、私が大阪で留学生活を送ることができました！大阪でのこの数か月の間にいろいろなことがありました。

友達と先生が面白くて、学校生活がとても楽しかったです。授業のほかに部活もあって、とても充実していました。化学の先生は私と会うと、まるで私の友達のように、いつも私をくすぐったりします。地理の先生は授業が始まる時、いつも同じような台詞を言っていますので、私はもう覚えました。クラスの友達は、みんな関西弁を教えてくれたり、若者の流行語もたくさん教えてくれました。三国志が好きな人とファーウェイが好きな人もいました。一番楽しかったのは１１月の修学旅行です。芝生でみんな一緒にダンスしたあの夜はまだ私の記憶に残っています。ああ、まるで昨日のことのようです。

留学していた間、私はずっと同じホストファミリーの家に住んでいました。子供は四人で、お兄さん２人、お姉さん１人、妹さん１人います。ホストファミリーは私にとても優しいので、もう私の日本の家族になりました。いろいろなところに連れて行ってくれて、いろいろなことを教えてくれて、本当にいい勉強になりました。日常生活からも、いい習慣になりました。例えば、早寝早起きすることや外から帰ってくる時手洗い、うがいすることなどです。そのおかげで、私の体は健康になって、背も少し伸びました。

日本での留学経験は私をより成熟させました。私は日本語がうまく使えないので、いつも相手の話を聞くことが好きで、聞くのが上手になりました。自分の意見を述べる前に、他人の意見を聞くことが重要だと分かりました。そして、異文化からのカルチャーショックを受けて、多文化共生の必要を感じました。友達はみんな面白くて、冗談も好きで、性格的には、私は前よりもっと明るく、熱心な人になってきました。

４月、大阪の桜が散って、私は日本を離れました。夢から醒めるように短く、私の留学生活が終わってしまいました。友達と別れの挨拶をきちんとできなかったけど、日本の皆さんとまた会えると、私は信じています。私はこれからも頑張って、自分の夢を追いかけていきます。たとえ何十年後でも、日本に行ったことを後悔することはないと思います、このかけがえのない１６歳の時…

弥生

清風南海中学校・高等学校 / 済南外国語学校
徐　欣然
XU Xinran

やっと日本に来たねっ、と私は東京に着いた時思いました。

バスから見た新しい景色は私にとって夢模様でした。でも、色々な問題も心の中に芽吹いたようでした。正直にいうと、最初本当に心配でした。日本で友達ができますか？先生の授業がわかりますか？ホストファミリーの皆さんと仲良くできますか？でも、自分自身で経験した後、それらの心配が雪融けのようになりました。

今でも覚えているのは、初めて学校のクラスに行った時、ある男子は「清風南海希望の星」と彼の名前が書いてあった紙を自己紹介として私に渡しました。みんなの笑顔は親切で、心の中の不安が一瞬で消えました。暖かさを含む春の風のように私を包みました。お弁当を食べる時、友達と話しながら食べて、体育大会のための練習をして、ダンス大会の練習をして、自分が本当に清風南海の一員になったとどんどん強く感じました。

私は剣道部に入りました。初めて練習をしに行った時は、本当に何もわからなくて、でも部員達は先輩も後輩も同級生もみんな熱心で、優しく私にゼロから教えてくれました。竹刀の持ち方、礼儀、皆さんのおかげで、だんだんできるようになりました。練習した後部室で着替えながら話して、一緒に電車で帰ります。一級の審査の前の日はマラソン大会でした。7キロぐらい走った後、また友達と練習してもらいました。本当にすごく感動しました。英語部も面白くて、先生と英語の練習ができます。友達と帰り道でずっと英語でしゃべって、外国人に「英語が上手ですねぇ!」と褒められました。

ホストファミリーの家庭での生活は素晴らしいです。最初のホストファミリーのお家の中では犬を飼っていて、めっちゃ可愛いかったです。お母さんも妹も親切で、その時まだ完全に日本の生活に慣れていない私は助かりました。私の誕生日の時も、プレゼントをもらいました。2つ目のホストファミリーのお家では1番長く生活しました。妹とバレエの「白鳥の湖」を見に行って、バレンタインデーの時手作り菓子を作って、ひな祭りの時ちらし寿司と蛤のお吸い物を作って…最高の想い出がいっぱいです。3つ目のホストファミリーのお家では、猫を7匹も飼っていました！猫におやつをやるとか、カードゲームをすることも本当に楽しかったです。色々経験しましたが、同じなのは、3つのホストファミリーは全部私を本当の娘のように扱ってくれました。私もすごく感謝の気持ちを持って、ありがたいという感情を伝えたいです。

縁って、こんなに不思議なものですわー。普通の中国人のある少女が日本に来て、友達や日本の家族に出会って、、、なかなか言葉で表せない、奇妙なことです。ですが、この珍しくて大切な経験は、ずっと記憶の蔵の中で、弥生の春風のようにキラキラと光っているでしょう。

春風

大阪府立夕陽丘高等学校 / 河南省実験中学
王　子旋
WANG Zini

「届けて、春の風に」ねぇ、この歌、知っていますか？私たちと離れる時に、似合いませんか ..... ？

私と春は本当に縁があります。このプログラムのことを先生から聞いた時は初春でした。私はまだ日本語を半年ぐらい学んだ初心者でした。でも日本へめっちゃ行きたいです！この気持ちを持って、去年の 5 月の選抜で選ばれました。

9 月、日本に到着し、私たちの物語が始まりました。私はあの日から、ユウヒ（夕陽丘高校）の 74 期生になりました。私を担当してくれた池田先生は、私の大好きな科目である化学の先生ですが、残念ですが 1 年生は化学の授業がないです。でも池田先生は本当に優しい先生です。学校の時病気でも、質問がある時でも、いつも細かく教えてくれます。もちろん、うちのクラスの担任の上坂先生と井上先生など、他の先生も同じように優しいです。問題がある時、直接先生に聞けばいいです。新型コロナウィルスの影響で、予定より早く帰国しましたが、1 年の時の担任の先生が上坂先生で本当に楽しかったです。でも、コロナウィルスのために学校が臨時休校になってしまい残念でした。先生たちに最後に伝えられたらよかった .....。

それから、友達のことを話しましょうか。私は軽音部に入りました。最初の時、中国でいつもやるから、音楽はやらなくてもいいかな、と思いましたがでもやはり音楽大好きです。その原因でこの学校に行ったのかもしれません。ユウヒは音楽についての部活も多いです。ギター部や、軽音部や吹奏部などたくさんあります。私はギター部と軽音部どちらを選んだらいいかわかりません。結局、多分エレキギター弾く機会はこれだけだと思うから、軽音部に入りました。私はギター本当に下手です。初心者というより、やはり私はゼロ経験者です。中国国内で 1 ヵ月だけ学びましたが、指で弾いただけで、ピックで弾くのは全然無理です。それにめっちゃくちゃ速い曲を弾くとか、1 ヵ月後ライブで演出とか、私にとって挑戦です。しかし、他の部員のおかげで、私はどんどん上手くなりました。それから何回かのライブとか、本当に部員にいろいろお世話になりました。軽音部に入って、ユウヒに入ってよかったです。この気持ち伝わるかな .....。

ユウヒには合唱コンクールもあります。各クラスは 2 曲歌います。そして音楽選択クラスはまた 1 曲あります。私のクラスの自由曲は『春愁』です。音楽選択は『群青』です。やはり春と縁があります。春に恋をしたい気持ちを歌うとか、災難の後の始まりとか、全部歌で伝えられます。「今でもまた思う」あの時舞台で歌ったあの気持ち、今でも思い出します。

この春、私たちは帰国しました。予定よりずっと早かったです。この気持ち、春風にのせて届けたいな .....。

私の宝物

和歌山県立橋本高等学校 / 洛陽外国語学校
張　卓寧
ZHANG Zhuoning

留学生活が予定より短くなって、7ヶ月間はあっという間に終わっちゃった。

初めて橋本高校の写真を見た時、私はこの学校のことをとても気に入った。それは春の時に撮った、満開のさくらに包まれる校舎の写真だった。9月に私が自分の目で見た学校は、その写真と違って生き生きしている緑色だった。その夏のしっぽを捕まえて、私が橋本高校での留学生活を開始した頃は、ちょうど体育祭の準備の時だった。まだクラス全員の名前も覚えていなかった私は、大縄跳び、全員一脚と学級全員が一緒に踊るフォークダンスに参加した。最初は完全にみんなの足を引っ張っていただけだったが、本番の時は大縄跳びも全員一脚も私のクラスは学年一位をとった。まさかと思っていたが、みんなとの絆がこの体育祭で深くなった。とてもいい始まりだと思う。

その後秋がきて、もみじの葉っぱが赤く色づき、椿も咲いた。色の変化の早いこの時期に、私は遠足で神戸に行った。そこで、私は人生初めてのプリクラを撮った。その機械のおかげで、私は初めてくちびるが赤くなった写真が撮れた。同じグループの子たちとは観覧車に乗ろうと思ったが、時間が足りなくて、今度また一緒に観覧車乗りに行こうと約束したが、乗れなくて残念だった。しかし、残念だったからこそ、そのことが特別な記憶として覚えられるのだ。

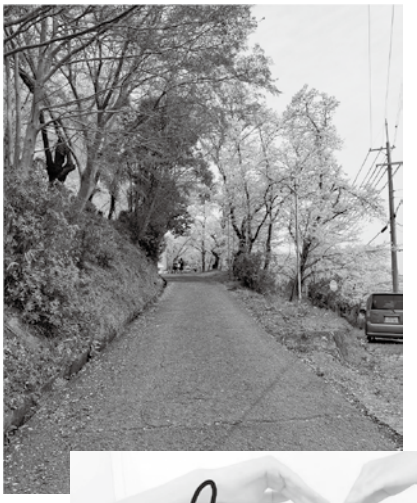
紅葉は黙って散ったが、椿はまだいきいきと年を越えて咲いていた。2020年の新年は、私が初めて生まれた地を離れて、血縁のない家族たちと過ごした新年だった。中国での何十人も集まる新年より人数は少なかったが、雰囲気は同じように楽しかった。

冬休みが終わった時、私は新しいホストファミリーの家に引っ越した。私を加えて5人の家族だった。平和、そう、とても平和な毎日だった。私の17歳の誕生日はちょうどいいタイミングで日曜日だったので、家族で温泉ホテルに行った。温泉と食べ放題があって、それにみかん熊のぬいぐるみのプレゼントをもらって、最高の誕生日だった。その翌日の月曜日、私は教室に入ったところで、ポンっと小さい礼砲が鳴った。それは人生初めて学校での誕生日で、みんなが花道も作ってくれて、プレゼントのマフラーもくれた。とても暖かくて柔らかかった。感動で笑いながら涙が出てきた。

2月の始まりは金剛登山で、雪が少ないけど、私が歌いながら登るのを雪さんとつららさんたちが見守ってくれた。

3月、学校に行く道が満開のさくらでピンクになった。けれど、コロナウィルスの影響で臨時休校になった。最後に学校に行った時は、花びらはもう大地の懐に帰っていた。その時、私は日本人がさくらを気に入った原因がわかった。今回の留学生活も、私の人生にとって、きれいなさくらみたいな時期だった。

去年の9月の自分と比べれば、今の私は成長し、心が豊かになった。私は日本にいるあいだに、いろいろ観察し、体験し、そして考えることで、星のようにキラキラしている大切な思い出ができた。その思い出は、いつになっても、思い出したら心に響く大切な宝物だ。



出会えて良かった

愛媛県立南宇和高等学校 / 岑鞏県第一中学
唐　錦麗
TANG Jinli

早めに帰国するとは思わなかった。3 月から、ホストファミリーと 5 月の旅行を計画していて、4 月には心連心 TV カメラマンも愛媛に取材に来る予定だった。すべてが完璧のようだ。最後まで完成出来なかったが、私はそのために特別な経験をもらった。私は SNS で帰国になったことを載せて、最後の時には、担任の先生が他の先生とクラスメイトが書いてくれた手紙を持って、別れを告げるために家に来てくれたり、クラスメイトは私に内緒で家に来てさようならと言ってくれたり、隣の人が美味しいものを作ってくれたり、ホストファミリーの家でお別れ会を開いたりした。コロナウイルスが蔓延しているこのような特別な時期であっても、人と人の愛は阻まれていない。とても感動した。もし未来のある日に「2020 年は何かいい思い出がありましたか？」と聞かれたら、私はきっと喜んで答える。「沢山のいい人に出会って、本当によかった。」

私のホストファミリーは、四国で生まれて育った日本人だ。彼らから多くの日本の伝統文化を感じ、体験できた。ホストファミリーの親切で明るい性格のおかげで、私はすぐにこの家族に慣れた。長い間の付き合いの後で、ホストファミリーとチャットする時は小さな文化の触れ合いのように、留学生活に彩りを与えた。最近、日本の子育ての理念と方法についての文章を読んだ。私はこの話題に興味があって、自分自身でも本当に感じて体験したこともあった。私は日本に行って初めて可愛い弟 2 人と妹が 1 人できた。弟と妹は自分の子供の時より健康で活発だと思っている。日本では、米国、フランスなどの先進国よりも、子供の体力を育てることにもっと力を入れている。中国では体力より文化授業を重視する学校が多いかもしれない。それ以外に、礼儀正しい日本人は子供の頃から礼儀正しい教育を行っている。或いは、子供に規則の意識を作っている。子供の環境保護意識を育てることもあった。日本人は小さい時からゴミの分別を勉強していて、ゴミの正しい捨て方を知っている。このような教育方法は確かに参考にする意味があると思う。

そして、学校の皆さんはとても親切に私を歓迎してくれた。とても幸運だ。最初は気合十分だった私は、みんなの予想外に、練習が厳しいと言われている吹奏楽部に入り、部活から日本人の一面を知るようになった。日本ではゆとり教育が行われ、部活動で学生たちに熱血を注ぎ、夢を追う過程を楽しんでもらえる。全国あるいは地域の数えきれないほどの高校部活の試合、生徒はすべて機会があって最も輝く自分を他の人に披露する。日本の学生も部活動に対して深い感情と強い意志を持っている。このような部活動に対する責任感の現れは、以前吹奏楽部の友達が部活動をやめたことで知ることとなった。私は、部活をやめることは難しいことじゃないと思ったが、その友達は先生と何回も相談して、やっと同意を得られて、最後に部員全員の前で退部の原因を説明し、同じ学年生がまた残って懇談していた。終わってから、私はこのような状況についてよく理解できなかったが、最後にホストファミリーから教えてもらった。学生たちが部活動に最後まで参加することに責任感と信念を持っていたので、途中で退部するのはあまりいいことではないと説明してくれた。これでやっと分った。

7 ヶ月の間の感想はとても多くて、ここでは印象的なことだけを挙げた。心連心プログラムと助けてくれた友達、先生、ホストファミリーに感謝します。また会いましょう！

日本での７ヶ月の旅Z一あなたに出会えて嬉しかった

活水高等学校 / 黄岡市外国語学校
彭　錦
PENG Jin

終礼の時に伴う最後の一言「アーメン」が終わると、あっという間に、私の留学生活は手の中の砂のように、流失して見えなくなりました。「そうだ、そろそろ行く時だ」と思いました。私は早めに荷造りをして、飛行機に乗るまで、このすべてのことがこんなに真実だとは信じたくない、と思いました。飛行機の上で、周囲の雲が私の目の前を通過して、私も７か月前にこのようにして海を渡って長崎に来て、期待をいっぱい持って、すべての未知の新鮮な物事を迎えに来たことを思い出します。

時間は流星のようににぎやかで、突然に振り返ってみると、学校でのひとつひとつの出来事は思えば思うほど味わい深いです。そう、ここは私の成長を証明して、私の酸いも甘いも証明して、私の青春と若々しさを証明しました。私たち 14 期生は７カ月間で、一緒により良い大人になりました。私は最高の時間にあなた達に出会ったのではなくて、あなた達に出会った後で、やっと私は最高の時間をもらいました。

異国は所詮故郷には及びませんが、日本で出会った皆さんは頑張って私に家の温かさを味わわせてくれました。たとえば旅行に連れて行ってくれたり、私の小さな願いを一つ一つ完成させてくれました。私に限りなく親切にしてくれました。本当にありがとうございます。ありがとう以外に何を言えばいいのか分かりません。ホストファミリーの両親は私が想像していたよりずっと親切で、彼ら夫婦は仲がよくて、実にうらやましいです。ホストファミリーの両親には申し訳ないけど、家族のために何もできなかったのです。でも、会えたのは縁です。あなたの家で楽しい思い出ができたことも嬉しいです。

心連心プロジェクトに参加したから、会わなかったはずの私たちに出会いがありました。私たちが会う機会は多くはありません。しかし、それは私たちが親友になることを妨げるものではありません。異国の地で互いに応援し、心を打ち明け、私たちの留学生活にも多くの暖かさを与えてくれました。このような友達は本当にめったにない、あなたたちに出会って、私は幸運に恵まれました。

初めて会ってそして別れた時を覚えていますか。胸がいっぱいなのに、のんきなふりをする。人生は片道旅行なので、少し残念でも、また戻る機会はありません。だから、最後の食事で、私たちはこの何枚かの写真を残して思い出を作りました。

時間が来て、私たちの旅もそろそろ終わります。これからもお互いを忘れず、心に留めてほしいです。

かけがえのない出会い

岩田中学校・高等学校 / 深圳外国語学校
何　心鈺
HE Xinyu

今回の留学生活の中で、私にとって一番貴重なことは何かというと、さまざまな人との不思議な出会いだと思います。予想外のサプライズみたいな経験は私を成長させて、その出会いの経験はこれからの人生にも役立つのだろうと思っています。

一番印象に残っているのは世界各地の人たちとの出会いだと思います。私が留学に行っていた岩田学園は各国の留学生が多かったので、いろいろな人と交流することができました。寂しい留学生活の中で助け合ったり、世話をしてくれたりする人達はまるで小さい太陽のような心を温める存在です。みんなはそれぞれ違うところから来ているのに、最後まで隙間のないように馴染んできました。

学校が休みになったときに私はホストファミリーの家に泊まっていました。ホストファミリーのみんなはいつも親切にしてくれて、いろいろ体験させてくれました。普通の日常生活の中でよく家族の暖かさを感じることができ、いつもみんなと出会って良かったなあとよく考えています。ある夜、ホストマザーが自分の経験したことや留学生を受け入れた話を私にたくさん話してくれました。その時、自分がホストマザーだけと出会ったことではなく、ホストマザーの話の中のさまざま人たちとも出会ったような感じがしました。国を超えて、様々な人たちとつながりを作るのは出会うことの素晴らしさでないでしょうか。

もちろん留学生活は楽しいことばかりではなく、文化の違いでショックを受けることもたくさんあると思います。しかし､私はショックの出会いも大事だと思っています。日本に行ったばかりの時に、よく「すみません」という言葉で迷っていました。相手は何の悪いこともしていないのに、どうしていつも「すみません」と言ってくれますか。日本で何か月間の生活を過ごしてきて、私はだんだんわかるようになりました。人に迷惑をかけないことは日本でとても大事で、「すみません」を使うのがみんなの習慣であることが分かりました。私はこの「すみません」の意味を少し分かってきて、日本文化への理解も多少深めたと思います。このように世界中の文化と出会って、視野を広げることができるのではないのでしょうか。

今回の留学生活の中から私が習った一番大事なことは「頑張っていろいろな事や人と出会うことが大事だ」ということです。世界各地の人と出会って、国を超えたつながりが作れます。さまざまな文化と出会って、自分の視野が広げられます。いろいろめぐって、自分の目からこの世界の素晴らしさを学ぶのは幸せなことではないのでしょうか。

私たちは、これからも、迷わずに頑張ってこの世界と出会いましょう。

成長に伴って笑う日々

熊本県立宇土高等学校 / 長沙外国語学校
竜　楚騫
LONG Chuqian

思い返せば、みんなとの帰り道での笑い声がまた聞こえてくるような気がする。長くて短い留学生活が終わりました。やりたいことがいっぱいあるけど、残念ながらコロナウィルスの影響により、帰国しました。

去年の 9 月、いろんな期待を抱いて、熊本に着きました。日本での学校生活を体験して、日本人の友達を作って話をして、部活を楽しんで、充実な毎日を送ることができました。

学校に来た最初の日、一人で教室でこっそり泣きました。緊張して、この先うまくいかないかもしれないと怖がっていました。でもそうではありませんでした。みんなが私のため行ってくれた歓迎会で、一人ずつ私に自己紹介をして、挨拶をしてくれました。最初の一週間は何回も自己紹介をして、だんだん慣れてきました。先生が学校を案内してくれた時に会った女の子が最初に友達になった人です。彼女はいつも一緒に弁当を食べて、私を熊本市内に遊びに誘って、よく手作り菓子をくれて、大事な友達です。熊本で中国の学校にない授業を受けて、華道部で花を生けて、美術部で初めて油絵を描いて、チームで SSH の研究論文を書いて発表して、いろんなことを経験して、短い日々だけど、すごく成長しました。休みの日、ゲームセンターに行ったり、映画を見たり、プリクラを撮ったり、中華料理を食べたりして、みんなとの時間を大切にして、一生忘れられません。私に中国のことや中国語のことを聞いてくれて、それで興味をもってくれた、あるいは最初から中国に興味を持っていたクラスメイトもいます。友達に時々 LINE で電話をして中国語を教えます。みんなが中国を好きになって何より嬉しいです。

そして、ホームステイのお母さんからたくさんのことを教わりました。大変お世話になって、本当にありがとうございます。家にいる時が多いから、いっぱい話をして、楽しい時間を過ごしました。私をまるで自分の子供みたいにしてくれて、美味しい料理を食べて、一緒にクリスマス、大晦日、お正月やホストブラザーのひろくんの誕生日を迎えて、たくさんの思い出を作りました。お正月の時、お母さんの親戚の家にいって、みんな一緒にご飯を食べました。お母さんは刺繍が上手です。家にいっぱい刺繍を飾っています。私にマフラーの編み方を教えてくれて、私は中国にいるお母さんのために、マフラーを編みました。私の日本語はまだ上手ではないので、いつもお母さんが訂正してくれて、感謝します。お母さんは時間がある時、よく私をいろんなところへ連れていってくれました。阿蘇で温泉に入って、球磨でお母さんのお母さんと会って、人吉の公園で雛祭りのお人形を見ました。思い出したら楽しいことばかり。

いろいろ事情があって、3 月になり、私が熊本市内の別の家でホームステイすることになりました。4 月の帰国まで短い時間でしたが、管理人さん夫婦とほかに一緒に住んでいた学生達と春の暖かい 1 ヶ月を送りました。

まださよならを言いたくないけど、ここでお別れしよう。この熊本、宇土で過ごした日々、見たこと、聞いたこと、出会った人を大事な宝物にして、先の未来へ向かいます。

夢の先に向かうところ

熊本県立第一高等学校 / 上海市甘泉外国語中学
俞　騫澍
YU Qianshu

2019 年 9 月。「空から見る世界は何色に見えますか？」と聞かれると、日本に向かう飛行機の中の私はきっとオレンジだと答えるだろう。いつも輝く、情熱を持っているオレンジだ。あの時、まだこの先は何が起こるかがわからず、ただ大きな憧れを持っていた。心の中には不安と鼓動に満たされて、少しの使命感も抱いて、そのまま日本、熊本にやって来た。

最初は学校の寮に泊まると思っていたが、実は下宿だった。下宿で管理人さん 3 人と、私を含めて学生 4 人が住んでいた。下宿のみんなが優しくて色々教えてくれた。まず慣れなくてはいけないのは毎日自分の皿と服を洗うことだ。中国でそういうことはほとんどお母さんがやってくれるから、自分でやるのは初めてとも言える。最初は辛いと思ったが、時が流れると楽しいことになった。やっぱり自分でするのは達成感があって、やりがいもだんだん感じて来た。晩ご飯の時、みんなテレビ番組を見たり雑談したり、家族のようだった。お正月の時、管理人さん夫婦は私と同じ下宿に住んでいるはるかちゃんを連れて船の旅をした。みんなでいい思い出ができた。

「・・・よろしくお願いします！」その言葉の後に、私の学校生活が始まった。私が通ったのは熊本城の敷地のすぐそばにある第一高校だった。古い校舎、砂のグラウンド、清潔で荘厳な体育館、それが私の第一印象だった。「スカートが長くない？それに、なんで夏服が長袖？」暑さの至りに、私は思わず愚痴を出した。友達は「私も思ったよ。でもこの制服は百年前からそうだったらしい。」と教えてくれた。歴史を含めた制服だね。私は急にこの制服に敬意をもった。「ちなみに、前は女子校だったよ！」だから女の子いっぱいに見えるね！この学校は 6 割が女子で男子は珍しいと思っているそうだ。うちのクラスは全体で 45 人いて男子はたった 8 人しかいない。そんな環境で私はすぐ友達ができた。ひさこは私の初めての友達だった。最初に話をかけてくれたのもひさこだった。ひさこは中国に興味があるといった。私が中国のゲームを紹介した後、彼女はすぐにそのゲームにハマった。（私が紹介したことは正解なのかな笑。）でも彼女はこう言ってくれた。「毎日ゲームをして楽しかった。ありがとう。」楽しいと言ってくれてありがたいけど、あまり長くゲームをして欲しくないよなー笑笑。そうやって私は他のクラスメートとも話し始めた。まだ覚えている、初めてご飯に誘うとき恐怖を持っていた私。でも相手はすぐに「いいよ」って言った。あの時本当に嬉しかった。そうして、ほづきとも友達になった。

この後も順調に学校生活を楽しんでいった。文化祭でいろいろなところを回って美味しいものもたくさん食べた。また、邦楽部に入って琴を習い始めた。初めての家庭科の授業がすごく面白かった。ミシンも初めて使った。料理実習の時みんなで中華料理を作った。最後は生姜をかけすぎたせいで味がおかしくなったが、みんなで一緒に作ったものだから、全部美味しく食べた。まだ熊本の蒸し暑さに慣れていなかったうちに、夏が終わってしまった。冬になったばかりの頃に、私たちは東京へ修学旅行に行った。これらの一つ一つの思い出はかけがえのない宝物になって私の心に刻まれた。

今の私もまだ未熟だけど、この私にとってとても短かった留学生活を通して、自分は前の自分より強くなっただろうか。でもそれよりずっと大切なのは私の夢が固くなったことだ。私はもっと遠くの空へ飛びたいんだ。自分はもっともっと成長できると感じた。だけど、そんな私が生まれたのはそばにいる人たちのおかげだ。みんながいてくれてこそ、自分がここに立つ勇気を持っている。この気持ちは絶対に忘れない。

「今の世界はどんな色に見えますか？」

やっぱりオレンジだね。でもちょっと違うふうに見えるよ。今のは暖かく、優しい、諦めないオレンジだ。

異郷の暖かさ

日章学園高等学校 / 黄岡市外国語学校
韓　晗
HAN Han

夏の日差しはまだ来ていないし、宮崎のマンゴーもまだ熟していないが、日本生活はこれで終わりになりました。私と同じく「まだ帰りたくないなぁ」「もっと多くのことを習いたいなぁ」と思っている人がたくさんいるかもしれません。私は 12 月の研修ですごく偉そうな目標を定めていたが、まだ達成していないのが何個か残っていて、もっと頑張ったら達成できたかもと残念に思います。

去年の 9 月に宮崎の日章学園にくる前に、2 名の先輩から、日章学園は宮崎県の田舎にあると聞きました。交通が不便で、虫もいっぱいって。私はまだ状況がわからないけど、すごい街が目の前で田舎へ変わってきました。私の心も寒くなりました。

何日間の緩和期を過ごし、落ち込んでいても無駄だということがわかりました。私は友達を作ったり部活にも参加しました。10 月 1 日、来日して 1 ヶ月。撮影が好きな私は初めて日本人と一緒に頑張って、「Vlog」を一本撮りました。その中に参加している日本人は友達だけでなく知らない生徒もいます。みんなはすごく頑張って助けてくれて、私は久しぶりに暖かさを感じました。

しかし、留学生活はそんなにうまくはいかない。私は特進科に在籍していて授業の時間の関係で、気に入った部活の正式メンバーになることができませんでした。部活に入っていないので、食事時間はずっと 1 人です。学校でよく相談できる人が、放課後何も言ってくれない。日本語能力も予想していた通り上手になれない。成績が良くないし、人間関係も大変。また、孤独感に包まれました。でも大丈夫、12 月に研修がありますから。心連心 14 期生のみんなが集まって自分の悩みなどを分かち合って、その上みんなで解決方法を考えました。グループで課題をやったこと、発表したこと、先生方の授業を受けたこと、魏先生が講義してくださったこと、様々なところへ行ったこと、そして最後の夜みんなでゲームをやって、オールナイトで話をしたこと。私は中で 1 番年上なのに、弟と妹たちから暖かさを感じました。

冬休みになって、いよいよホームステイします。お父さんもお母さんも優しいし、4 歳の妹も私に「自由にしてね」と言ってくれました。私はいつもお父さんと「オセロ」をします。弟と一緒に英語を習います。かわいい妹はよく私と人形でおままごと遊びをしようとしていましたが、私には無理でごめんね。ホストファミリーは本当の家族のようです。一緒にご飯を食べたり、外出したり、私に写真を撮ってくださったり、最後の晩餐で中華料理を作ってくださって、家族の暖かさを深く感じました。本当に本当に感動です。

2 月初め、コロナウィルスの感染が爆発し、まもなく学校は休校になりました。寮生はみんな自宅に帰ったので、寮ではご飯が出ませんでした。私は毎日コンビニでお弁当を買って食べました。最初美味しく感じたけどすぐ嫌になりました。この時野球部総監督の先生が寮に来て、私を自分の家に連れて行って、毎日夕食を作ってくださいました。それまで先生と全然話をしたことがなかったけど、毎日寮に私を迎えに来て自分の家に連れて行って、家族と一緒に食事をします。一緒に「オトコ炒飯」を作ったり、焼肉を焼いてくださったり、若い時のことを教えてくれたり、これはきっと、私にとって、留学最後の暖かさだったのでしょうね。

今の私はもう緊急帰国しました。経った時間を思えば、やはりニコニコしますね。最初の「帰りたい」が、今はもう「絶対いつか日本に行きたい」になって、最初寒くなった私の心も、日本の人々に暖められました。この世には暖かさがどこでも存在しています。私はこの暖められた心で、もっと多くの暖かさを作る。私は心連心に参加して、絶対後悔はありません。成田空港で言った「行ってきます」のように、私はきっといつか戻ります。

きっとですよ。

帰国した後考えたこと

鹿児島県立武岡台高等学校 / 南京外国語学校
唐　詩雲
TANG Shiyun

私たちは日本に行く前に、もちろんいろいろな注意点とか、日本文化を勉強したけれど、その時、あまり「どうして」「なぜ」のような疑問がありませんでしたが、自分で行った後だんだんその原因がわかるようになりました。

少し例をあげれば、日本人は氷水が好きで、特にお店やレストランはいつもお客さんに氷がいっぱい入っている氷水を出すのです。これはホストファミリーの人に聞いたら、「なるほど」と感じました。昔は冷蔵庫とかは全くなかったので、氷はとっても珍しくて、結構大事なお客様しか飲めないです。だから今でもお客様に尊敬を表すために、やはり氷水を提供しています。そのほかはサービス業です。皆日本のサービスがいいと言うことを知っているけど、それはなぜですか？ 1 つの原因は、もちろん日本人は本当に心を込めてサービスを提供しているのです。もう一つは競争です。中国では、人々は多分安いほうがいいと思うけど、日本人は反対に、やっぱり環境やサービスの良いお店を選びたいと言う人が多いです。セブンイレブンは、もともとは名前通りに朝 7 時から夜 11 時までだったけど、他のコンビニはどんどん 24 時間営業になったので、セブンイレブンは結局 24 時間営業になったと聞きました。それは競争が原因です。

私たちは成長すると同時に身の回りのことに対する認識もどんどん深くなります。私たちの今の勉強も同じだと思います。以前多分常識として覚えていたものは、物理や化学を勉強したら、それを使って解釈できるようになりました。私たちはなぜ勉強するか、もちろん試験のためだけでなく、実は自分の視野を広げて、もっと高いところからこの世界を見られるように勉強するのです。私たちは将来どんなことをしたくても、基本的な知識を持った上で、後の一歩一歩を積み重ねればもっと安心することになると私は思っています。

心連心の後輩たちに言いたいこと：外国人は中国についての印象はインターネットからの情報はもちろんですが、もう一つはやっぱり身の回りの中国人なのです。私たちは留学生として、中国の姿を代表して、身近にいる日本人にいい印象を残す責任があります。一人で外国で生活して、あなたのことをよく知らないことは免れないのです。でも、それも彼らに中国のことを紹介して、さまざまな偏見を解消する機会です。最後に、後輩たちは楽しくこの留学を完成させて、悔いを残さないように、ぜひ頑張ってください。

運命の出合い

神村学園高等部 / 西安外国語大学附属西安外国語学校
楊　思露
YANG Silu

東京から瀋陽までの飛行機から降りて、白い防護服を着ている医療関係者が見えるまで、“やっぱり帰ってきたか、もう日本にはいないんだね。”という実感はなかったです。頭はふわふわして、真実ではないような気持ちが半月も続いて、いよいよ来た別れの日も、冷たくて感情のない機械のように、“さようなら”と言っていました。

とうとうその事実を実感したのは、二週間の中国での隔離が終わって、実家に帰って自分のベッドで寝転んだ時です。「この7ヶ月間の日本留学生活はどうだったのでしょうね。」私はそう思いかえしました。最初に、私は日本に行きたい理由は“新しい生活を体験したい”あるいは“日本の方々はどんな生活を過ごしているのかが知りたい”でした。その時はまだ単純に、留学生活は簡単でしょう、と思っていました。もちろんそれで色々大変なことがありました。

私のホストファミリーは沼田さんという方です。日本に行く前、第13期生の先輩から聞いていた通り、とてもとても優しくて情の深い方です。何でも教えてくれて、人間関係に詳しくて、いつも悩みを聞いてくれたり、アドバイスをくれたりしていました。沼田ママのおかげで、色々な社会での基本的な礼儀を習いました。例えば、「新しい環境にきたら、環境が変わるじゃなくて、自分が変わるんだよ」とか、「ちゃんと連絡取らないと、関係は続けられないよ」とか。

それだけではなく、熱心に色々な場所に連れて行ってくれたりしました。しかし、私はなかなか思いやりを理解することができなくて、ママに大変迷惑かけました。本当にすみませんでした。それでもママはいつも私に期待を持ってくれて、とてもありがたいです。

沼田ママ、私は最後まで期待してくださったようになれなかったということについて、残念な気持ちと謝罪の気持ちもあります。でも、私は絶対、ママが言ってくれた言葉を全部心に刻んで、ママの期待のようになって見せます！その時また日本で逢いましょう！

学校の先生も責任感があり、面白くて時々厳しい先生です。学校で何か問題やわからないことがあったらすぐ相談にのってくれました。ホストファミリーとの問題への対応の仕方から、礼儀正しくないラインスタンプまで全部教えてくれました（笑）。時々職員室で用事がある時、帰る前にまたチョコレートや飴をくれたりしました。本当にいい先生ですね。生徒たちもとても親切でした。いきなり微笑んで挨拶してくれた子もたくさんいました。クラスの子たちはすごく明るくて、いつもみんなワイワイしていました。何かわからないことがあった時もすぐ教えてくれました。（みんなの熱意には最初ちょっとびっくりしました笑）まさか英語だけじゃなくて中国語で挨拶してくれる人もいて本当にびっくりしました！

もちろん12月研修の時センターの先生方のおかけで、太鼓などの日本文化もいろいろ体験し、みんなで悩みを解決して、楽しくて勉強にもなりました。（今年コロナウィルスで研修は1回しかなくて残念でした）

人生というのは、色々行くはずのところに行って、会えるはずの人と会うことです。それは運命とも言えるでしょう。

この鹿児島で、この日本で遭ったことを一生忘れません。この記憶は、私の一生の宝物です。

さあ、世界へ

沖縄県立向陽高等学校 / 蘇州市第三中学
王　小禾
WANG Xiaohe

重い鞄を背負って、ついさっきもらった先生と友達からの可愛いプレゼントを腕で挟んで、スーツケースの走っている音と空港に響く搭乗案内の声を聴きながら、私は沖縄を後にし、７ヶ月にわたる留学生活を終えた。来た時も帰る時も急いでいた。

去年の９月、綺麗さと新鮮感があふれていた東京から始まり、飛行機の中からだんだん海の色が明るくなるのを見ながら沖縄についた。新しい環境に入ったばかりで緊張していたが、先生の車から眺めた夕暮れの、少し透明感がする沖縄の景色も、海が見えるという学校への楽しみも、私にこれからの生活への憧れを感じさせた。そしてあれから、美しい景色は落ち込んでいる私を何回も癒し、元気をくれた。

寮についたら、先生と相部屋の子にいろいろ教えてもらって、やっと落ち着いた。そして夜の点呼が終わってから、国文科のみんながお菓子をたくさん持って「歓迎パーティーだよ」と言って部屋にきた。優しくて明るくて、いつもサプライズをもたらす向陽生たちだった。黒板に５ヵ国語で「ようこそ」を書いたクラスパーティーでびっくりさせられたり、バスに長時間乗って一緒に買い物に行ってもらったり、臨時担任の先生のウェルカムパーティーと送別会をこっそり準備したり…自分が書いた劇の台本を何人かが放課後遅くまで残って訂正してた。修学旅行は行き先が海外だから皆と一緒に行けなかったが、代わりに先生に京都に連れて行ってもらって楽しかった。同時に他のみんなは、修学旅行先のシンガポールで、私の書いた台本を面白く上演した。バレンタインには、女子のみんなと一緒に、男子に隠れて一人一人へのメッセージつきチョコレートを準備してすばらしいパーティーをし、そして１ヶ月後にサプライズホワイトデイパーティーにびっくりさせられた。お別れのとき、みんなが寮の放送で一人一人、私にお別れの言葉を大声で伝えた。他にもたくさん、素晴らしい思い出が残された。

優しく接してくれたのは、学生のみなさんだけではなかった。食堂の方々は、ベジタリアンの私のために、お肉なしの和食や琉球料理を作ってくれた。先生たちも、いつも私のことを励まして、いろいろ助けてくれた。そして、日中交流センターのみなさんも、なにごとも細かく考えて、私にサポートされていることを実感させてくれて、安心して頑張ることができた。

この半年間で、私の世界は広くなった。まずはより多い自由時間ができて、自分なりの勉強法と時間のマネジメント力がついた。学校の授業でも、いろいろ学ばせてもらった。英語の授業でよく英語で作文をかく機会があって、自分の考えをそのまま述べたら、先生に高く評価された。それは度々あまり主流とは言えない考えだったのだが、いつも「いい考えだ」「現実的だ」と褒めてくれる先生がいて、どんどん自分の意見が言えるようになった。倫理の授業で少しだけでも哲学に触れることができ、マキアベリに興味ができて、漫画の「君主論」を借りて何回も読んで、今は原作に挑戦している。部活でエレキギターにチャレンジして、友達もたくさんできた。

日本の友達と将来の夢について話したことが何回もあった。「発展途上国支援する教師になりたい」「貧しい国で看護師として活動したい」「わからないが、日韓や日中関係について学びたい」とか、華やかな夢がたくさん出てきた。そんなみなさんの夢がかなうように祈りたい。そして、夢をかなえた彼らにまた会えるように、私もこれから、もっと広い世界を目指して頑張ることを、心に決めた。

お世話になった受入校の先生、クラスメート、ホストファミリーのみなさまから、14期生受入れのご感想をお寄せいただきました。

受入校

何 心鈺さんを受け入れて

岩田中学校・高等学校　教頭　橋本 隆史 先生

私どもの学校が『心連心』の留学生の受け入れを開始したのが2013年、現在まで9名の生徒さんと接してきましたが、皆礼儀正しく向学心に溢れ、瞳に澄んだ輝きを持っていると言う点で共通していたというのが私の印象です。彼らは常に我が校の生徒たちに良い刺激を与えてくれました。そして、初めての女子生徒である14期生の何心鈺さんもまた、第一印象から聡明さを感じさせる生徒さんでした。

何さんが所属したのは『APU・立命館コース』という高大連携を特色としたカリキュラムを持つコースの1年生クラス。日本語と英語の能力に優れ、面倒見の良い彼女は、早速他国から来た留学生（インドネシア、ドイツ、ラオスから各1名）たちの“通訳”としての役目も買って出てくれるようになりました。また寮でも規則正しい生活を送ることができて穏やかな性格であるため、寮母さんや寮生仲間からの信頼を獲得するのに時間はかかりませんでした。慣れない日本の授業にも真剣に向き合って成績もトップクラス、放課後は書道部で活動、冬休み期間中には2泊3日の農村民泊も経験するなど、何さんは日本での留学生活に対して常に前向きにチャレンジしてくれました。中でも、校内の誰もが目を見張ったのが『大分県高等学校英語ディベート大会』での活躍です。10月に開催されたこの大会で何さんのチームは優勝。彼女自身は見事『ベストディベーター賞』を獲得し、その後も九州大会、全国大会を通して“エース”の役割を果たしてくれました。指導に当たったカナダ人講師のベルフラー先生は、彼女の英語の“聴く”・“話す”能力はもちろんのこと、与えられた資料や相手の話を素早く理解し、それをもとに思考するスピードの速さに舌を巻いたそうです。

しかし、そんな何さんの日々を一変させたのがコロナ禍でした。私どもの学校も3月当初から休校となり、生徒たちは自宅でのi-Padを用いたオンライン授業へ移行。寮生たちもそれぞれ帰省したため、彼女はクラスメイトのお宅にホームステイすることになりました。故郷での感染拡大のニュース、異国での自粛生活…　言葉には出さずとも、さぞかしご家族や友人の身を案じていたことでしょう。いつ帰国できるかも分からない中、先の見えない不安にも苛まれたことでしょう。それでも彼女は日々を前向きに過ごし、やがてホストファミリーがある地域の人々からも親しまれる存在になっていました。そして前倒しの帰国決定。私たち生徒・教員の思いは“もっと何さんと多くの時間を過ごし、お互いの気持ちを通じ合わせたかった”ということ…。大分を発つ前に彼女は「将来、APUに入学したい」と言ってくれたそうです。

“何さん、ありがとう。また大分に戻ってきてね。みんな何さんに逢える日を楽しみにしてるよ！”

最後になりますが、この場を借りて日中交流センターのスタッフの皆様、ホストファミリーの皆様、その他何さんに関わってくれた全ての方へ、心よりの御礼を申し上げます。

何さん（左から2番目）とディベート大会参加メンバー

受入校

王 籽陸くんを受け入れて

立命館慶祥中学校・高等学校　和田 衣世 先生

今年4月の初め、第14期生の王籽陸くんと腕を合わせてお別れをした。新型コロナウイルス拡大の影響により、予定より3ヶ月も早いお別れとなった。しかし王くんは「日本の大学に進学する」と力強い意志を見せていた。

王くんに初めて会ったのは、9月上旬、本校でのことだった。本校の心連心の留学生は、校舎の敷地から離れたところにある学校寮で生活する。初登校日は同じ寮生とともに、JRに乗りスクールバスに揺られ登校した。これまでに私が出会った心連心の留学生は誰もみな日本語能力が高く優秀な生徒ばかりだったが、すでに日本語能力試験N1に合格していた王くんはとくに日本語の発音が自然できれいだな、という印象を受けた。一つでも多く日本人生徒と同じ授業を受けたいという本人の希望から、留学生のための日本語の授業には参加せずに、日本人と同じ授業で過ごすことになった。

クラスメートとよく談笑している姿を見かけたが、勉強については苦労していた。王くんは学内でトップの進学クラスに配置されたのだが、勉強についていくのが非常に大変だと話していた。理数系、とくに数学が苦手というのもあったが、そもそも中国の高校とは科目のアプローチの仕方が違うことも影響していた。また、それまでに本校で受け入れていた心連心の留学生が極めて学業優秀だったこともあり、比較されてしまうことも苦痛のようだった。しかし、寮に戻ると中国語で解説された数学の学習動画で復習しながら努力を重ね、国語や英語も決してやさしいものではなかったが、最終的に担当の先生から高い評価を受けた。

学業に関していえば苦労の連続だったようだが、積極的に部活動に参加し日本の学校生活の経験を深め、寮で開催された料理教室のイベントにも参加するなど、何事にも前向きに取り組んでいた。本校が毎年参加している江別市の国際交流イベントでは、故郷の済南を自ら作成したパワーポイントで紹介し、聞くものの興味を掻き立てる立派なプレゼンテーションを行った。冬休み・春休みは寮を離れて日本のホストファミリーと過ごす機会があり、何でも好奇心旺盛に取り組む姿からホストファミリーにとても可愛がられていた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために2月末から自宅学習期間が始まってしまった。この時、同じ寮生で隣のクラスの生徒から、実家で一緒に過ごしてみないかと誘われるなど、交友関係はたいへん良好になっていた。新学年になり、これからますます…というところでの突然の帰国ということになってしまった。春が遅い北海道では、桜を見ることもかなわなかった。

今年は新型コロナウイルスのために多くの高校生が夢をあきらめざるを得なかった。留学生もまた、ついこの前まで想像もつかなかった事態に翻弄されている。途中で帰国することになった留学生、未だに来日できていない留学生。王くんも例年通り7月まで本校にいられたら、どんなにか充実した日々が待っていただろうと思うと残念でならない。いつかまた日本に「再留学」してもらいたいと切に願っている。

王くんとホストシスター

ホスト
ファミリー

心のつながりを持つきっかけ

唐 錦麗さんホストファミリー　嶋本 純也 様

「留学生の受け入れですか?そんなものはうちではしてないです。」地元の高校に連絡をした時の教頭の第一声であった。 初めてのことで、最初は受入校の先生方も戸惑っておられたが、心連心の先生方も常にサポートしてくださり教頭先生や担任の先生を始めとして多くの先生方から、留学生活が円滑に進むよう最大限手助けして頂いた。また愛南町の皆さんも快く受け入れてくださり皆さんのご協力で約8ヶ月間のホストファミリー生活を送ることができ、心より感謝の意を表したい。

ホストファミリーを申し出た経緯であるが、仕事の傍アメリカ大学院に年6回通学する中で、アジアからの留学生のほとんどは中国人であり、次世代は中国の方々との関わりが必要になってくると感じていた。そこで自分の住んでいる地域の方々や家族に中国からの留学生と交流して欲しい、そして心連心の掲げる次世代が繋がってくれるということを願い、申し出た。

登校初日の朝、一生懸命全校生徒への挨拶を練習する姿が初々しかった。いつも明るく、笑顔の可愛らしい彼女は、学校にもすぐに溶け込み、携帯電話は友達の連絡先でいっぱいになっていた。人気者になった彼女は色々な部活動に引っ張りだこになり、悩んでいたが、厳しいことで有名な吹奏楽部に入った。私と妻は日本の部活というのは、日本独自の文化であり本当に大変であることを何度も伝えたが、彼女の決心は固く入部した。毎日本当に遅くまで、そして週末も練習をしていた。残念ながら途中で退部という形を選ぶことにはなったが、部活動を通して、日本人の勉強だけではなく、何事にも最後までやり遂げる、という精神を直に体験できたのではないかと思う。

日本での1番の思い出は「旅行に行ったこと」と彼女が言うように、私たちは、多くの地に旅をした。テーマパークや温泉、各地の特産品など様々なことを錦麗に体験してもらえて良かったと思う。錦麗からは、中国の料理（四川料理）についても教えてもらった。日本の激辛ラーメン30倍を「辛くないです!!」と涼しい顔で平らげた姿が印象的である（笑）。妻も毎日気合を入れて料理を作ったり、新婚時代以来の弁当が復活した。ありがとう。ホストファミリーの秘訣は楽しむことではないだろうか、そして負担を感じたらはっきり言うことだと思う。妻はあまり不満を前面に出したり、人に直接的にいうのは苦手な性分であり、その際には私が伝えるようにした。家族で役割分担をして、大きなトラブルなくホストファミリー生活を続けることができた。

最後に、錦麗の頑張る姿に子供達もいい影響を受けたと思います。家に来てくれたのが錦麗さんでよかったです。ありがとう!

ホスト
ファミリー

陳 儀さんとの思い出

陳 儀さんホストファミリー　吉田 智子 様

陳儀さんは、心連心からお迎えする三人目の留学生です。最初の印象から可愛らしく、笑顔の優しい爽やかな高校生でした。

当時、我が家には12期生の江さんも滞在しており、小、中学生の二人の息子と、私たち夫婦と、総勢6人の賑やかな生活が始まりました。最初はお互い緊張がありましたが、長野へのリンゴ狩り、そして毎日の夕食後の家族団らんを通して、次第に打ち解けていきました。

陳儀さんは、日本が大好きで留学したとのことでした。将来はデザインの道に進みたいと、学校では美術部に所属し、友達も着実に増えていきました。休日には、進学したい大学のオープンキャンパスや、興味のある美術館へ行くなど、将来に向けて情報収集をしていました。既に、将来一緒に仕事をしたい尊敬しているデザイナーもいるとのこと、その明確な目標に感心しました。

年末には、大掃除を手伝ってくれました。彼女の仕事ぶりは丁寧で、これにも感心しました。大みそかは、一緒に紅白歌合戦を見ながら年越しそばを食べました。また簡単なお正月のお料理や、お雑煮を一緒に作りました。お餅のおいしさに感動し、何個もおかわりしてくれ、嬉しく思ったのを覚えています。

我が家での生活に慣れてくると、彼女は中学生の息子に英語を教えてくれるようになりました。更に一緒に日本語表現の勉強もしてくれました。特に英語に関しては、丁寧な指導で本当に感心しました。陳儀さんが来てから、我が家のリビングテーブルでは、息子達二人と、そこに受験生の江さんも加わり、4人で勉強する姿がよく見られるようになりました。それだけではありません。私が夕食づくりをしていると、必ずスッと横に来てくれて、「ママ、なにか私にできることある?」とお手伝いをしてくれるのです。これも本当に助かりました。我が家には女の子はいないけれど、本当の娘のようだと、私たち夫婦はよく話しました。

そんな順調な留学生活の中、新型コロナウィルス感染症対策で、急遽帰国することになってしまいました。突然のことに陳儀さんは泣いてしまいました。私も思わず泣かずにはいられませんでした。来日後、さまざまな積み重ねをしてきた陳儀さんの後半の留学生活を見られなかったことは、本当に残念でした。

別れがたい思いが強く残り、帰国後は毎日、テレビ電話で陳儀さんと話しました。日本語表現や英語の勉強、いつもの家族団らんを続けました。コンパクトではありますが、まるで、日本留学の続きを、オンラインで続けているようでした。

今は、陳儀さんの学校が始まり、寮生活とのことで、毎日の電話は、暫しお休みとなってしまいました。でもまた、夏休みなど時間が出来た時には、毎日のテレビ電話で、オンラインの日本留学（！）をしようと話しています。そして現在、直接会うことは難しい状況ですが、陳儀さんが日本の大学を希望し、来日した際に、ぜひ再会出来ることを心待ちにしています。

陳儀さん（右から 2 番目）とホストファミリー

友達

留学生を迎えて

史 錦超くん受入校　酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校　五十嵐 大空さん

僕が、史君の留学を知らされたのは今からちょうど半年前。今まで中学校でも海外からの留学生はいたことがあるが、関わりを持ったことがなく、正直不安であった。しかし、今回は違った。僕にとってもある意味留学のような経験ができた。

彼が来た頃、まず僕が何と言っても驚いたことが1つある。それは彼の日本語での会話力であった。先生や周りの人の話を聞き取るのはもちろん、普通に自分たちと話すことができていたのだ。そのおかげで、すぐに友達になることができた。

そして迎えた修学旅行。女子が多いクラスだったので僕は彼と一緒に行動する機会が多かった。そんなわけで僕は一日中、彼と沢山の物・事についてお互いに聞きあって交流し合うことができ、貴重な体験とすることができたのだ。

学校での生活もまた、彼に教えただけでなく色々と教えてもらった。地理の時間には中国について学んでいたとき、みんなで中国出身の彼に実際の話を聞けたりと、自分たちがまるで中国に訪問したかのような体験をすることもできた。

こうした楽しい日々をもう少し過ごせるはずだったが、世界的に感染症が流行してしまい急遽彼は帰ることになってしまった。でもその分、なんだか濃い半年間を過ごせたと思う。また今の世の中が落ち着いたら彼と会える日が来ることを待っている。

友達

孟ちゃんとの思い出

孟 沁培さん受入校　長野県長野西高等学校　青柳 明里さん

今回、初めて留学生を受け入れました。初めてのことで上手にコミュニケーションがとれるのか不安でした。しかし、クラスでの自己紹介を聞くと、日本語の流暢さに驚き、不安は減りました。また、クラスのひとたちとすぐに打ち解けていて、もとからクラスにいたかのように思えました。

彼女が我が家に滞在していた時、分からない単語や、日本語があるときはスマホのアプリを使いながら会話を続けていてすごいと家族も感心していました。そして、日々の生活で、中国と日本との違いを知ることができました。

4月、新型コロナウイルスの影響で予定より早く帰国することになってしまいました。本当はクラスの全員で文化祭を行うはずだったので、残念です。急な別れになってしまったけど、ホームステイをしていた期間、様々な刺激を受け、いい経験になりました。

受入校の声

日本と中国の学校のシステムの違いや学習内容について、新しい発見があり、生徒だけでなく教師としてもよい刺激をもらった。

正直なところ、中国人への偏見がかなりなくなった。(逆に言うと、いままで学校の生徒が中国人に偏見が強かったことに驚いた。)

クラス行事にも積極的に参加し、クラスの仲間と一緒に楽しんでくれた。中国の文化について話したり、日本の文化について再発見するなど、お互い良い刺激を与えた。

「そういえば●●さんって中国人だった」という印象。中国という国がどんどん身近になっている。

現在進行している新型コロナウィルス問題でも、露呈している国状だからこそ、若い世代に知日家や親日家を増やすことになるだろう心連心プログラムは意義があると思います。

以前よりも中国のニュース記事が気になるようになった。その話題を共有したり、中国の教育事情やその他の文化などをいろいろ教えてもらって、中国に対する親しみが増しました。

今年度で3人目の受入となりましたが、三者三様でみんな違ったタイプで「中国の高校生はこんな感じ」といったステレオタイプは全く通用しない、ということを再確認しました。

生徒との交流を通じて、中国にはとても優秀な高校生を育成する優れた教育制度があることを初めて知ることができました。

留学することにより、より深く日本文化を極めていただき、歴史の深い長崎にも親しんでいただければ嬉しい。

ホストファミリーの声

やはり言葉が通じないと、難しいと思うことが多々あった。良い経験になりました。伝える事って難しいな、と思いました。コミュニケーションをもう少しとりたかった。日本語の勉強のために来ていると思うので、上手でなくてもいいのでもう少し伝える努力をしてほしかった。

中国の食文化の奥深さに改めて感心しています。留学生によくお料理を手伝ってもらいましたが、その中で食文化について興味がさらに深まりました。

我が子に英語を教えてくれたり、友人関係のことを相談したり、学校で起きた出来事を伝えあったり、とタ食時がとても賑やかでした。

あとがき

心連心･中国高校生長期招へい事業第14期の実施にあたりましては、受入校、ホストファミリー及び関係諸機関の方々からご支援、ご協力を賜りましたことに心から感謝致します。

特に、新型コロナ・ウイルスの影響により、各受入校が臨時休校を余儀なくされたことに伴い、招へい生を預かってくださったご家庭の皆様には通常とは異なるご負担をお掛けしたことと存じます。

さて、第14期生26名は、北京市や上海市等の大都市に加え、内陸部も含めた中国各地11省・3直轄市から、2019年9月に来日しました。来日直後に東京・千葉で実施された研修が終了すると、北は北海道、南は九州・沖縄まで全国各地17都道府県の受け入れ高校に散らばって、高校生活・交流活動を開始しました。

今期も前期同様に、留学生活の最初の壁にぶつかることが多い時期に合わせて12月に中間研修を実施するなど、総じて順調に交流活動を行っていました。しかしながら、年明け後は新型コロナ・ウイルスの影響が徐々に出始め、時とともに拡大していったため、政府が全国に非常事態宣言を行った4月に、やむを得ぬ措置として、事業の早期終了と早期帰国を決定致しました。

14期生は通常の長期招へい事業と比べ、日本の滞在期間は数ヵ月間短くなることとなりましたが、この事業の成果は単に滞在期間の長短で測るものではありません。招へい生が滞在期間中に得ることができた貴重な体験や、日本の高校生やホストファミリー、先生方等様々な人々とのかけがえのない交流の質によって測られるものと考えています。

心連心のOB･OGは今14期生を含め442名となりましたが、その多くが再来日を果たし、政府関係や企業関係等様々な分野で活躍をしています。14期生26名も、新型コロナ・ウイルスの困難を乗り越えて、将来の日中新時代を築いていくためのよき架け橋となってくれることを願っています。

国際交流基金　日中交流センター

事務局長　高橋 力丸

心連心ウェブサイト

日 中 両 言 語 対 応

https: ／／ www.chinacenter.jp ／

日中交流センターでは、日本と中国の将来を担う若者たちが心と心を結び合う “心連心” をテーマに、「高校生長期招へい事業」「中国ふれあいの場事業」「ネットワーク強化事業」を実施しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

発行　独立行政法人国際交流基金
日中交流センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4
TEL：03-5369-6074　FAX：03-5369-6043

2020年9月発行

JAPANFOUNDATION
国際交流基金
日中交流センター